

(様式第10)

島大医総第310-1号

令和 5年 10月 6日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人島根大学

学長 服部 泰直

島根大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
氏名	国立大学法人島根大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

島根大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
電話(0853) 23 - 2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	無						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科

診療実績

呼吸器内科は、呼吸器・化学療法内科で標榜している。
 神経内科は、脳神経内科で標榜している。
 内分泌内科及び代謝内科は、内分泌代謝内科で標榜している。
 リウマチ科は、膠原病内科で標榜している。
 感染症内科は、内分泌代謝内科、腫瘍・血液内科、消化器内科、肝臓内科、脳神経内科、膠原病内科、呼吸器・化学療法内科、腎臓内科で診療している。
 アレルギー科は、呼吸器・化学療法内科、皮膚科、小児科で診療をしている。

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		有	
外科と組み合わせた診療科名			
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科
			3乳腺外科
			4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科
			7内分泌外科
		○	8小児外科
診療実績			
乳腺外科及び内分泌外科は、乳腺・内分泌外科で標榜している。			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		無	
歯科と組み合わせた診療科名			
	1小児歯科		2矯正歯科
		○	3歯科口腔外科
歯科の診療体制			
歯科医師を常時配置している。			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	肝臓内科	3	形成外科	4	肝・胆・膵外科	5	臨床検査科
6	病理診断科	7	リハビリテーション科	8	精神科神経科	9	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30				570	600

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	346	2.8	348.8	看護補助者	35	診療エックス線技師	0
歯科医師	14	0	14	理学療法士	25	臨床検査技師	45
薬剤師	47	0	47	作業療法士	10	臨床検査衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	8	その他	0
助産師	57	0.8	57.8	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	794	15.6	809.6	臨床工学士	17	医療社会事業従事者	0
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	84
歯科衛生士	0	7	7	歯科技工士	0	事務職員	251
管理栄養士	10	0	10	診療放射線技師	42	その他の職員	9

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	50	眼科専門医	6
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	6	放射線科専門医	3
小児科専門医	14	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	10	救急科専門医	11
		合計	194

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (椎名 浩昭 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

- ・医療問題専門部会長
- ・日々のインシデントレポート把握
- ・病院内での全死亡患者の把握
- ・合併症の把握
- ・医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	494 人	17 人	511 人
1日当たり平均外来患者数	1,132 人	91 人	1,223 人
1日当たり平均調剤数	1078.6		剤
必要医師数	119		人
必要歯科医師数	3		人
必要薬剤師数	18		人
必要(准)看護師数	297		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	499.33 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222 m ²		病床数	20 床		
	[移動式の場合] 台数		台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 52 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	523 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学検査装置、免疫分析装置		
細菌検査室	100 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液培養装置、質量分析装置		
病理検査室	239 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	57 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染対策用解剖台、臓器撮影装置		
研究室	15049 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	透過電子顕微鏡、質量分析装置		
講義室	1910 m ²	鉄筋コンクリート	室数 10 室	收容定員 1504 人		
図書室	1819 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 139000 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	72.7	%	逆紹介率	46.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		11,810		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,551		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,589		人
	D: 初診の患者の数		18,431		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
大居 慎治	松江赤十字病院		医療安全管理に関する 識見を有する	無	1
北條 宣政	浜田医療センター		医療安全管理に関する 識見を有する	無	1
二國 則昭	弁護士法人 広島みらい法律事務所	○	医療安全管理に関する 識見を有する	無	1
高瀬 政夫	出雲市今市地区 社会福祉協議会		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
島根大学医学部附属病院のホームページに公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 通常の化学療法や免疫抑制療法だけでは治すことが難しい白血病や小児がんに対する難治性疾患などに対して、完治させることを目的として行う治療 末梢血造血幹細胞移植術 9人、骨髄移植術 3人、臍帯血移植術 6人			
医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 白血球の一種であるT細胞を遺伝子導入により改変し、患者さんに投与することで、患者さん自身の免疫システムを利用してがんを攻撃する革新的な治療			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	1人/年
当該医療技術の概要 通常の化学療法や免疫抑制療法だけでは治すことが難しい白血病や小児がんに対する難治性疾患などに対して、完治させることを目的として行う治療			
医療技術名	経口免疫療法	取扱患者数	30人/年
当該医療技術の概要 自然経過では早期に耐性獲得が期待できない症例に対して、事前の食物経口負荷試験で症状誘発閾値を確認した後に原因食物を経口摂取させ、閾値上昇または脱感作状態とした上で、究極的には耐性獲得を目指す治療法			
医療技術名	小児心臓カテーテル治療	取扱患者数	40人/年
当該医療技術の概要 非侵襲的で安全かつ有効な治療法で、小児の先天性心疾患に対して行っている。			
医療技術名	新生児脳低体温療法	取扱患者数	3人/年
当該医療技術の概要 新生児の低酸素性虚血性脳症による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減するための治療法			
医療技術名	バクロフェン髄注療法 (intrathecal baclofen therapy: ITB)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 脳や脊髄に障害を受けた患者さんでは、上位中枢から脊髄へのコントロールが失われ、手足が勝手にこわばるといった痙縮を来す。痙縮は日常生活の障害を引き起こす。この痙縮をやわらげる薬であるバクロフェンを脊髄腔内に直接投与することで、薬物抵抗性の重度痙縮を緩和することができる。 バクロフェン髄注療法 (ITB) は、あらかじめスクリーニングテストで治療効果を実感してもらい、脊髄腔内に挿入したカテーテルとポンプを腹部に埋め込む外科手術を行い、経皮的にポンプの薬液補充 (リフィル) を約3ヶ月に一回施行するものである。当院では、ITBのスクリーニングとITB埋込術を施行し、かつリフィルも担当している。			
医療技術名	脳深部刺激療法とその外来調整	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 パーキンソン病や本態性振戦では、大脳基底核の神経核から発生する神経インパルスの異常により、手足の震えや、こわばり (固縮) が生じる。これに対して、精密な定位脳手術装置を用いて特定の大脳基底核に刺激電極を誘導し、患者さんの胸部に埋め込んだ刺激発生装置から持続的に大脳基底核へ送り、振戦や固縮を和らげる治療を実施している。本治療後の患者さんは、定期的に外来で刺激調整を行っている。			
医療技術名	神経内視鏡下脳内 (脳室内) 血腫除去術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脳腫瘍、脊髄髄内腫瘍、脳動脈瘤、脳動静脈脈奇形などは、手術手技難度が高く、また近年では、これらの手術に対しても良好な治療成績が求められる。このため、手術中に様々な神経モニタリングや、手術ナビゲーションシステム、一部の脳腫瘍に対しては覚醒下手術など、手術担当医師ばかりではなく、手術看護師、電気生理技師、言語聴覚士などの専門資格を有する、多職種での連携手術が必要となる。			

医療技術名	医科点数表における手術手技10万点以上の開頭手術	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要			
脳腫瘍、脊髄髄内腫瘍、脳動脈瘤、脳動静脈脈奇形などは、手術手技難度が高く、また近年では、これらの手術に対しても良好な治療成績が求められる。このため、手術中に様々な神経モニタリングや、手術ナビゲーションシステム、一部の脳腫瘍に対しては覚醒下手術など、手術担当医師ばかりではなく、手術看護師、電気生理技師、言語聴覚士などの専門資格を有する、多職種での連携手術が必要となる。			
医療技術名	脳梗塞超急性期血栓療法	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
超急性期脳梗塞に対する治療法として、TPA静注療法とならび重要な療法である。発症後8時間以内の患者さんが対象になり、血管内カテーテルを挿入して脳血管まで進め、血栓を回収して、閉塞した脳血管を再開通させることにより、梗塞による重篤な症状になることを阻止している。			
医療技術名	コンピューターアシストによる患者カスタムメイド型カッティングガイドおよび再建用プレートによる腫瘍切除並びに顎骨再建	取扱患者数	10人/年
当該医療技術の概要			
顎口腔領域の腫瘍切除と顎骨再建の3次元的切除再建は非常に困難である。そこでコンピューターシミュレーション下に作成した患者カスタムメイドのカッティングガイドと再建用プレートを用い、精密かつ確実な腫瘍切除と正確なプレートの適合、ならびに再建用プレート屈曲にかかる手術時間の短縮を可能としている。			
医療技術名	内視鏡を用いた顎口腔領域停侵襲手術	取扱患者数	10人/年
当該医療技術の概要			
顎口腔領域はその解剖学的特徴から明視野下での処置が困難なことが多い。そこで内視鏡補助下に手術を行いこれまで盲目下でした処置できなかった顎骨内病変の切除、摘出、上顎洞内異物の摘出、顎変形症治療や顎顔面骨折の整復を確実なものとする。			
医療技術名	サージカルガイドを用いた広範囲顎骨支持型装置の埋入	取扱患者数	5人/年
当該医療技術の概要			
広範囲顎骨支持型装置はその適応症の性質から、再建顎骨や広範囲の顎欠損といった埋入時にその部位や方向などの確認が困難となることが多い。そのため事前にコンピューター上で設計し作成したサージカルガイドを用いて、設計通りの広範囲顎骨支持型装置の埋入を可能とする。			
医療技術名	ナビゲーションシステムを用いた顎顔面骨折の治療	取扱患者数	15人/年
当該医療技術の概要			
顎顔面骨折はその解剖学的特徴から、術野の明示ならびに骨折部位の到達には困難を要することが多い。そのため術前CTを用いた術中ナビゲーションシステムを用いることで器具の到達、整復の程度をモニター上で確認し確実な整復固定を可能とする。			
医療技術名	3D模型を用いた顎顔面骨折の再建	取扱患者数	10人/年
当該医療技術の概要			
顎顔面領域は複雑かつ菲薄な骨により構成されているため骨折により容易に広範囲の骨欠損を生じる。その場合再建または整復の指標として術前に健側の骨形態をミラーリングした3D模型を作成することで機能的、整容的に優れた治療を行うことができる。			
医療技術名	応力解析を行った新規患者カスタムメイド型メッシュ状積層形成再建用プレートによる腫瘍切除並びに顎骨再建	取扱患者数	10人/年
当該医療技術の概要			
口腔は咬合咀嚼といった機能的負荷が多き、これまで再建用プレートの破折が問題であった。今回新規にコンピューターによる応力解析を行い作成する患者カスタムメイド型再建プレートを用い顎骨再建を行うことで口腔機能に耐え得る顎骨再建を行うことができる			
医療技術名	包括的周術期等口腔機能管理	取扱患者数	1600人/年
当該医療技術の概要			
周術期における口腔内のトラブル・肺炎・感染性心内膜炎などの感染予防、化学療法中の口腔有害事象対策、緩和ケアとしての口腔衛生管理のため、オーラルマネジメントを推進している。			

医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
悪性黒色腫、メルケル細胞癌、有棘細胞癌、乳房外パジェット病に対して色素法とRI法併用によるセンチネルリンパ節生検を施行し、微小転移を検索し、病期決定や術後補助療法の検討している。県内唯一の施設である。			
医療技術名	外耳道真珠腫に対する内視鏡下外耳道形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
術式が確定していない外耳道真珠腫進展例に対して、経耳内視鏡下に外耳道形成術を行った。			
医療技術名	開頭・経鼻内視鏡併用による前頭蓋底腫瘍摘出再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
鼻腔および前頭蓋窩に高度に進展した前頭蓋底腫瘍(嗅神経芽細胞腫)症例に対して、脳神経外科による開頭手術、耳鼻咽喉科・頭頸部外科による経鼻内視鏡手術を併用して腫瘍全摘および再建術を行った。			
医療技術名	Open septorhinoplasty	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
高度な斜鼻および鼻腔形態異常の症例に対し、形成外科による外切開・外鼻形成および耳鼻咽喉科・頭頸部外科による経鼻内視鏡手術を同時に行う。			
医療技術名	人工内耳埋込術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
両側高度難聴の症例(乳児～成人)に対し、人工内耳を埋め込み、術後リハビリテーションで聴力の再獲得を行った。			
医療技術名	埋込型骨導補聴器埋込術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
高度な伝音難聴で鼓室形成術等の方法で聴力改善が得られない症例に対して、埋込型骨導補聴器埋込術を行い、術後リハビリテーションで聴力再獲得を行った。			
医療技術名	子宮頸部広汎摘出術(トラケクトミー)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
若年の早期子宮頸癌患者に対して、子宮を温存するため、頸部のみを摘出し、残存体部と膈を縫合し、子宮を温存する手術である。県内では当科のみ実施している。			
医療技術名	卵管鏡下卵管形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
卵管性不妊の患者に対し、卵管鏡下に卵管狭窄部や閉塞部を開口させ、卵管通過性を開腹させる手術である。県内では当科のみ実施している。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮頸癌根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
子宮頸癌Ⅰ期～ⅡA期に対して腹腔鏡下に広汎子宮全摘術を行う。県内では当科のみ実施している。			
医療技術名	胎児胸腔羊水腔シャント術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
胎児供水に対する胎児治療で胎児胸腔と羊水腔にシャントチューブを留置することにより胎児水腫を防ぐ治療。中国地方での実施治療機関は当院のみである。			
医療技術名	ロボット支援下手術(食道・胃・直腸・肝・膵)	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要			
手術支援ロボットによる三次元の立体的な画像を用いて、より繊細な手術操作(剥離、縫合)を行うことが可能となる。腹腔鏡手術と同様に傷口が小さいため、術後の痛みが少なく、患者の社会復帰も早めることが期待できる。 食道 16, 胃 19, 直腸 16, 肝 3, 膵 4			

医療技術名	ダブルバルンによる難治性胆膵疾患の診断と治療	取扱患者数	102件(58人)
当該医療技術の概要			
術後消化管再建症例に対して、ダブルバルン内視鏡を用いて十二指腸乳頭へアプローチし、良性あるいは悪性疾患の診断・治療を行った。			
医療技術名	食道ESD後のステロイド充填法	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要			
食道癌内視鏡治療後の狭窄を防ぐため、食道内へのステロイド充填を行い、狭窄の予防を行った。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	31
取扱い患者数の合計(人)	2054

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
2	筋萎縮性側索硬化症	12	57	下垂体前葉機能低下症	35
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	甲状腺ホルモン不応症	1
4	進行性核上性麻痺	5	59	サルコイドーシス	31
5	パーキンソン病	72	60	特発性間質性肺炎	57
6	大脳皮質基底核変性症	5	61	肺動脈性肺高血圧症	5
7	ハンチントン病	1	62	慢性血栓栓性肺高血圧症	7
8	シャルコー・マリー・トゥース病	1	63	リンパ脈管筋腫症	2
9	重症筋無力症	30	64	網膜色素変性症	18
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	31	65	原発性胆汁性胆管炎	4
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	14	66	原発性硬化性胆管炎	2
12	多系統萎縮症	9	67	自己免疫性肝炎	8
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	68	クローン病	112
14	ライソゾーム病	1	69	潰瘍性大腸炎	181
15	ミトコンドリア病	8	70	好酸球性消化管疾患	9
16	もやもや病	7	71	コステロ症候群	1
17	プリオン病	1	72	若年性特発性関節炎	3
18	全身性アミロイドーシス	14	73	非典型溶血性尿毒症症候群	1
19	神経線維腫症	4	74	筋ジストロフィー	4
20	天疱瘡	7	75	脳表ヘモジデリン沈着症	1
21	膿疱性乾癬(汎発型)	5	76	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
22	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	77	前頭側頭葉変性症	2
23	中毒性表皮壊死症	1	78	ドラベ症候群	1
24	高安動脈炎	12	79	レノックス・ガストー症候群	1
25	巨細胞性動脈炎	5	80	家族性良性慢性天疱瘡	1
26	結節性多発動脈炎	2	81	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10
27	顕微鏡的多発血管炎	33	82	特発性後天性全身性無汗症	18
28	多発血管炎性肉芽腫症	8	83	22q11.2欠失症候群	1
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	20	84	修正大血管転位症	2
30	悪性関節リウマチ	8	85	左心低形成症候群	1
31	パージャール病	3	86	三尖弁閉鎖症	1
32	全身性エリテマトーデス	112	87	ファロー四徴症	2
33	皮膚筋炎／多発性筋炎	52	88	両大血管右室起始症	1
34	全身性強皮症	57	89	急速進行性糸球体腎炎	5
35	混合性結合組織病	19	90	一次性ネフローゼ症候群	15
36	シェーグレン症候群	19	91	紫斑病性腎炎	4
37	成人スチル病	10	92	オスラー病	1
38	ベーチェット病	33	93	副甲状腺機能低下症	3
39	特発性拡張型心筋症	17	94	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	2
40	肥大型心筋症	4	95	家族性地中海熱	1
41	再生不良性貧血	13	96	強直性脊椎炎	4
42	自己免疫性溶血性貧血	3	97	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	6
43	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	98	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	4
44	特発性血小板減少性紫斑病	16	99	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
45	血栓性血小板減少性紫斑病	1	100	IgG4関連疾患	10
46	原発性免疫不全症候群	5	101	黄斑ジストロフィー	4
47	IgA腎症	18	102	好酸球性副鼻腔炎	28
48	多発性嚢胞腎	14	103	シトリン欠損症	1
49	黄色靭帯骨化症	15	104	特発性多中心性キャッスルマン病	3
50	後縦靭帯骨化症	38	105		
51	広範脊柱管狭窄症	5	106		
52	特発性大腿骨頭壊死症	22	107		
53	下垂体性ADH分泌異常症	7	108		
54	下垂体性PRL分泌亢進症	3	109		
55	クッシング病	6	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	104
合計患者数(人)	1468

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料	・ハイリスク妊娠管理加算
・初診料(歯科)の注1に掲げる基準	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算1	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算
・医師事務作業補助体制加算1	・入退院支援加算
・急性期看護補助体制加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算	・精神疾患診療体制加算
・看護補助加算	・精神科急性期医師配置加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料3
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料2
・感染対策向上加算1	・緩和ケア病棟入院料1
・無菌治療室管理加算1	・看護職員処遇改善評価料
・無菌治療室管理加算2	・
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・ニコチン依存症管理料
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・開放型病院共同指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん患者指導管理料イ	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料ロ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹移植後)	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・一般不妊治療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料3	・遺伝学的検査
・下肢創傷処置管理料	・染色体検査の注2に規定する基準
・院内トリアージ実施料	・骨髄微小残存病変量想定
・外来放射線照射診療料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・連携充実加算	・先天性代謝異常症検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・画像診断管理加算3
・抗HLA(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・遠隔画像診断
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・CT撮影及びMRI撮影
・国際標準検査管理加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・外傷全身CT加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・乳房MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・小児鎮静下MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・頭部MRI撮影加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・全身MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・神経学的検査	・無菌製剤処理料
・補聴器適合検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・コンタクトレンズ検査料1	・摂食機能療法「注3」に規定する摂食嚥下機能回復体制加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・歯科口腔リハビリテーション料2
・口腔細菌定量検査	・救急患者精神科継続支援料
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼機能検査	・認知療法・認知行動療法1
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧能検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・精密触覚機能検査	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算1	・多血小板血漿処置

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・口腔粘膜処置	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・人工腎臓	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンス療法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
・手術用顕微鏡加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(センチネルリンパ節生検(単独))
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・センチネルリンパ節加算	・自家脂肪注入
・自家脂肪注入	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・角膜移植術(内皮移植加算)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下弁形成術
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経力カテーテル大動脈弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・網膜再建術
・網膜再建術	・経皮的僧帽弁クリップ術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波胆石破碎術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・体外衝撃波膵石破碎術
	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢静脈形成術	
・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切除術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・同種死体腎移植術
	・生体腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
	・人工尿道括約筋植込・置換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・歯根端切除手術の注3
・精巣内精子再手術	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・胎児輸血術及び臍帯穿刺	・体外照射呼吸性移動対策加算
・体外式膜型人工肺管理料	・定位放射線治療
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・病理診断管理加算2
	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・輸血管理料Ⅰ	・口腔病理診断管理加算2
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・コーディネイト体制充実加算	・歯科矯正診断料
・自己生体組織接着剤作成術	・
・同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
バレット食道と好酸球性食道炎の病態形成に関わる相互作用の解明	石村 典久	医学部	1,170,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
感染後過敏性腸症候群におけるToll様受容体9-ブリジキニン経路の解明と治療応用	古谷 聡史	医学部	1,300,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
McKibben型人工筋肉を用いて心臓の構造を構築しポンプ機能の再現を目指す	織田 禎二	医学部	2,015,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
Gapmer型アンチセンス核酸を用いた移植肺機能温存法の開発	山根 正修	医学部	1,300,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
生体吸収性樹脂(u-HA/PLLA)に対する機械的および科学的表面処理効果の検証	今出 真司	医学部附属病院	1,300,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
正常子宮内膜上皮幹細胞におけるde novo遺伝子変異の発癌における意義	佐藤 誠也	医学部附属病院	2,600,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
認知症発症を予測するAI画像診断の多因子拡張による認知症予防システムの開発	長井 篤	医学部	910,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
胆石や膵石形成における胆道・膵管内の微生物の関与についての研究	園山 浩紀	医学部附属病院	1,690,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
婦人科希少がんオルガノイドライブラリーを基盤とした新規治療法の開発	山下 瞳	医学部附属病院	1,430,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業
bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発	林田 麻衣子	医学部	130,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費 助成事業

サルコペニア合併糖尿病性腎臓病における負のスパイラルを標的とした治療戦略の開発	金崎 啓造	医学部	910,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
腸粘膜の透過性制御に着目したヒト腸管疑似モデルによる好酸球性胃腸炎の病態解明	大嶋 直樹	医学部附属病院	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
オルガノイド培養、網羅的遺伝子解析を駆使した子宮頸部胃型腺癌の新規治療法の開発	石川 雅子	医学部附属病院	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
国民医療費削減に資するプロトンポンプ阻害薬の“不適切処方”に関する実態解明研究	佐藤 利栄	医学部	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
肺炎疫学データが肺炎球菌ワクチン接種率と高齢者肺炎の予後に与える影響の調査	濱口 愛	医学部	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
変性黄色靭帯におけるグリコサミノグリカン解析と腰部脊柱管狭窄症の治療への応用	河野 通快	医学部附属病院	390,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
アスペルギルス感染を指標とした無菌治療室・無菌病棟の排気設備清掃基準の確立	城 有美	医学部附属病院	1,794,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
間葉系幹細胞のstemnessに影響を及ぼす代謝経路の多様性の検討	竹谷 健	医学部	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
腸管生息古細菌(アーキア)がヒトの健康と炎症性腸疾患に与える影響の検討	三島 義之	医学部	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
BNCT併用メラノーマ複合免疫療法へ向けた前臨床探索研究と新規ホウ素薬剤開発	山崎 修	医学部	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
YAP阻害による敗血症性臓器障害の制御	太田 淳一	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業

アルギン酸包埋ヒト間葉系幹細胞関節内注射による変形性関節症疾患修飾薬の開発	内尾 祐司	医学部	260,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
女性内分泌の中枢制御機構の解明	金崎 春彦	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
膵がん細胞での炎症性サイトカインIL-18の機能確認と阻害抗体を用いた治療応用	内田 有紀	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
終末呼気圧が腹腔鏡手術中の肥満患者の呼吸に与える影響を調べる研究	片山 望	医学部附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
新規行動変容指導法はがん患者の口腔に関する自己効力感を改善させるか？	松田 悠平	医学部	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
低酸素ストレスと脂肪化筋喪失・骨構造劣化:2型糖尿病の新たな骨脆弱性機序の探求	山本 昌弘	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
間葉系幹細胞移植によるアミロイドβの排泄機構の制御	三瀧 真悟	医学部附属病院	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
個人の脳活動制御能を予測する脳指標の特定とメカニズム解明	高村 真広	医学部附属病院	390,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
VLCADおよびMCAD欠損症における効率的酵素活性評価法の確立と運用	小林 弘典	医学部附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
腸管粘膜透過性を制御するB細胞機能の解析とクローン病の病態解明	石原 俊治	医学部	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
化学療法とIL-18 阻害抗体の併用による膵がん治療に向けた基盤的研究	田島 義証	医学部	975,000	補委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業

オピオイドによる痒みに対する多様性鎮痒法の確立	今町 憲貴	医学部	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
尿路感染におけるHMGB1の動態解析と尿中特異マーカーの可能性に関する探索的研究	和田 耕一郎	医学部	910,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
オルガノイド、網羅的遺伝子解析を駆使した子宮内膜脱分化癌の発生、進展機構の解明	中山 健太郎	医学部	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
キスペプチンを中心とする生殖機能制御機構の解明	折出 亜希	医学部附属病院	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
Toll様受容体を介した舌下免疫療法の増強	青井 典明	医学部	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
高純度ヒト骨髄間葉系幹細胞と生体活性3次元多孔質足場材料による顎骨再生療法の開発	管野 貴浩	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
口腔癌骨破壊病変における知覚神経と癌細胞の相互作用メカニズムの解明	奥井 達雄	医学部	1,105,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
効果的な社会的処方を実践するための地域共通モデルシステムの開発	牧石 徹也	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
腸内細菌由来トリプトファン代謝産物によるB細胞を介した腸炎抑制機序の検討	岡 明彦	医学部	1,950,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
末梢における中枢性生殖制御因子と妊娠予後に関する研究	原 友美	医学部附属病院	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
オルガノイド培養を駆使した卵巣脱分化癌の発生、進展機構の解明	石橋 朋佳	医学部	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
リンパ管壁のペリサイトに着目した重度リンパ浮腫発症機序の解明	林田 健志	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業

アルカリ損傷に対する持続洗浄時間の実験的研究	山川 翔	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
シングルセル解析を用いた糖尿病腎線維化プロセスの解明	林 義大	医学部	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
慢性腎臓病の動脈硬化進展におけるNAD代謝産物の役割	神田 武志	医学部	608,453	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
血管内皮細胞による褐色／ベージュ脂肪細胞の制御機構の解明	神田 武志	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
医師の診断エラーの要因解明と対策に関する2国間比較研究	和足 孝之	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
正常子宮内膜に認められる癌遺伝子変異は内膜再生・癌化のドライバーとなり得るか？	京 哲	医学部附属病院	4,420,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
ラマン分光法を用いた、好酸球性食道炎等の低侵襲な非生検診断法の開発	石原 俊治	医学部	390,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費 助成事業
精密工学の医療応用による再生医療骨ネジで靭帯付着部を再生する技術の開発	若槻拓也	医学部	700,000	補 委	島根県
浜田市における安全、安心な地域産婦人科医療体制確立に向けた試み	京 哲	医学部	2,600,000	補 委	浜田市
高齢者総合機能評価(CG A)ガイドラインの作成研究	津端由佳里	医学部	600,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
子宮頸癌ワクチン接種の勧奨再開に伴う住民の接種実態調査と接種率向上を目指した取り組み	京 哲	医学部	2,600,000	補 委	益田市
精神障害のある方に対するがん検診及びがん診療のアクセシビリティを向上するための実装研究	稲垣正俊	医学部	7,280,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金

局所温度制御とノンファウリング技術により人工肺の耐久性と生体適合性改善を目指す新規高機能人工肺の開発研究	織田 禎二	医学部	26,715,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞(REC-01)移植の安全性及び有効性を検討する臨床第I/IIa相医師主導治験(FIH試験)	竹谷 健	医学部	84,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	新原 寛之	附属病院	2,990,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非HIV免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	新原 寛之	附属病院	221,000	補 委	学校法人昭和大学
高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験	田村 研治	附属病院	19,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	田島 義証	医学部	130,000	補 委	静岡県立静岡がんセンター
未熟児動脈管開存症に対するアセトミノフェン静注療法に関する研究開発	山本 慧	附属病院	930,800	補 委	学校法人埼玉医科大学
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立	小林 弘典	附属病院	520,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
高齢がん医療の質の向上を目指した診療体制の基盤整備に関する研究	津端 由佳里	附属病院	20,135,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究(フォローアップ)	津端 由佳里	附属病院	390,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
難プラ標準レジストリーを使用し、新生児マススクリーニング対象疾患等の遺伝子変異を考慮したガイドライン改定に向けたエビデンス創出研究	小林 弘典	附属病院	845,000	補 委	国立大学法人東海国立大学機構

顕微鏡的多発血管炎および多発血管炎性肉芽腫症に対するトシリズマブの有効性、安全性、薬物動態に関する医師主導治験)	本田 学	附属病院	195,000	補 委	学校法人東京女子医科大学
--	------	------	---------	------------	--------------

計 68件

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等
(注) 1 が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kyo, Satoru; Kanno, Kosuke; Takakura, Masahiro; et al	産科婦人科	Clinical Landscape of PARP Inhibitors in Ovarian Cancer: Molecular Mechanisms and Clues to Overcome Resistance	CANCERS 2022 May;14(10)	Review
2	Ishibashi, Tomoka; Nakayama, Kentaro; Razia, Sultana; et al	産科婦人科	Impact of Uterine Size on Outcomes of Total Laparoscopic Hysterectomy for Uterine Leiomyomas	CLINICAL AND EXPERIMENTAL OBSTETRICS & GYNECOLOGY 2022 Aug;49(8)	Article
3	Tanito, Masaki; Matsuoka, Yotaro	眼科	Proportion of Glaucoma Types and Surgeries Among Young, Pre-Old, Old, and Oldest-Old Age Groups or Different Sex Groups	CLINICAL OPHTHALMOLOGY 2022 Jun;16:1815-1819	Article
4	Tanito, Masaki	眼科	Nation-Wide Analysis of Glaucoma Medication Prescription in Fiscal Year of 2019 in Japan	JOURNAL OF PERSONALIZED MEDICINE 2022 Jun;12(6) (オンライン)	Article
5	Tanito, Masaki; Hara, Takeshi; Aihara, Makoto	眼科	Survey on electronic visual field data transfer practices among Japan Glaucoma Society board members	BMC OPHTHALMOLOGY 2023 Feb;23(1)	Article
6	Kaidzu, Sachiko; Sugihara, Kazunobu; Sasaki, Masahiro; et al	眼科	Safety Evaluation of Far-UV-C Irradiation to Epithelial Basal Cells in the Corneal Limbus	PHOTOCHEMISTRY AND PHOTOBIOLOGY 2022 Dec;	Article
7	Nakatani, Toshihiko; Shiosakai, Kazuhito; Hashimoto, Tatsuya; et al	緩和ケア	Steady-State Pharmacokinetics of Intravenous Hydromorphone in Japanese Patients with Renal Impairment and Cancer Pain	JOURNAL OF PALLIATIVE MEDICINE 2022 Dec;	Article
8	Okui, Tatsuo; Hiasa, Masahiro; Hasegawa, Kazuaki; et al	歯科口腔外科	Lactate secreted via MCT4 from bone-colonizing breast cancer excites sensory neurons via GPR81	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY 2023 Mar;62(3)	Article
9	Yano, Shozo	臨床検査医	Comment on "Does body height affect vascular function?" Response	HYPERTENSION RESEARCH 2022 Jun;45(6):1093-1093	Letter

10	Kawashima, Kousaku; Oshima, Naoki; Kishimoto, Kenichi; et al	消化器内科	Low Fecal Calprotectin Predicts Histological Healing in Patients with Ulcerative Colitis with Endoscopic Remission and Leads to Prolonged Clinical Remission	INFLAMMATORY BOWEL DISEASES 2023 Mar;29(3):359-366	Article
11	Yazaki, Tomotaka; Kawashima, Kousaku; Ishimura, Norihisa; et al	肝臓内科	Oxaliplatin-related Portal Hypertension Complicated with Esophageal Varices and Refractory Massive Ascites	INTERNAL MEDICINE 2022 Apr;61(21):3225-3231	Article
12	Yazaki, Tomotaka; Moriyama, Ichiro; Tobita, Hiroshi; et al	肝臓内科	The Simultaneous Onset of Pancreatitis and Colitis as Immune-related Adverse Events in a Patient Receiving Nivolumab Treatment for Renal Cell Carcinoma	INTERNAL MEDICINE 2022 May;61(10):1485-1490	Article
13	Yazaki, Tomotaka; Tobita, Hiroshi; Sato, Shuichi; et al	肝臓内科	Combinational elastography for assessment of liver fibrosis in patients with liver injury	JOURNAL OF INTERNATIONAL MEDICAL RESEARCH 2022 Jun;50(6)	Article
14	Mitaki, Shingo; Takamura, Masahiro; Yamaguchi, Shuhei; et al	脳神経内科	Increase in cerebral microbleeds and cognitive decline	NEUROLOGICAL SCIENCES 2023 Feb;	Article
15	Kondo, Masahiro; Murakawa, Yohko; Honda, Manabu; et al	膠原病内科	A flare of systemic sclerosis potentially triggered by anti-SARS-CoV-2 mRNA vaccination	RHEUMATOLOGY ADVANCES IN PRACTICE 2022 Sep;6(3) (オンライン)	Letter
16	Tsubata, Yukari; Kawakado, Keita; Hamai, Kosuke; et al	呼吸器・化学療法内科	Identification of risk factors for venous thromboembolism and validation of the Khorana score in patients with advanced lung cancer: based on the multicenter, prospective Rising-VTE/NEJ037 study data	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY 2023 Jan;28(1):69-78	Article
17	Tsubata, Yukari; Hotta, Takamasa; Hamai, Kosuke; et al	呼吸器・化学療法内科	Incidence of venous thromboembolism in advanced lung cancer and efficacy and safety of direct oral anticoagulants: a multicenter, prospective, observational study (Rising-VTE/NEJ037 study)	THERAPEUTIC ADVANCES IN MEDICAL ONCOLOGY 2022 Jul;14	Article
18	Tsubata, Yukari; Hotta, Takamasa; Hamai, Kosuke; et al	呼吸器・化学療法内科	A new risk-assessment tool for venous thromboembolism in advanced lung cancer: a prospective, observational study	JOURNAL OF HEMATOLOGY & ONCOLOGY 2022 Apr;15(1)	Letter
19	Egawa, Masahiro; Fujii, Shungo; Takase, Kentaro; et al	腎臓内科	Pericardial effusion caused by viral pericarditis in a patient receiving peritoneal dialysis	RENAL REPLACEMENT THERAPY 2022 Apr;8(1) (オンライン)	Article

20	Fukunaga, Shohei; Fujita, Yuki	腎臓内科	Low glomerular number at birth can lead to the development of chronic kidney disease	FRONTIERS IN ENDOCRINOLOGY 2023 Jan;14	Review
21	Fukunaga, Shohei; Ogawa, Noriko; Matsumoto, Akihiro; et al	腎臓内科	Administration of retinoic acid to pregnant mice increases the number of fetal mouse glomeruli	BIOCHEMISTRY AND BIOPHYSICS REPORTS 2022 Jul;30	Article
22	Endo, Akihiro; Morita, Yusuke; Yasuda, Yu; et al	循環器内科	Very Late Stent Thrombosis after Discontinuation of Antiplatelet Agents during Anticoagulation Therapy in a Patient with Peri-stent Contrast Staining after Implantation of a Second-generation Drug-eluting Stent	INTERNAL MEDICINE 2022 Apr;61(8):1163-1167	Article
23	Endo, Akihiro; Morita, Yusuke; Yasuda, Yu; et al	循環器内科	Very Late Stent Thrombosis after Discontinuation of Antiplatelet Agents during Anticoagulation Therapy in a Patient with Peri-stent Contrast Staining after Implantation of a Second-generation Drug-eluting Stent	INTERNAL MEDICINE 2022 Apr;61(8):1163-1167	Article
24	Nakagawa, Yusei; Chinuki, Yuku; Ogino, Ryohei; et al	皮膚科	Cohort study of subclinical sensitization against galactose- α -1,3-galactose in Japan: Prevalence and regional variations	JOURNAL OF DERMATOLOGY 2022 Dec;49(12):1268-1277	Article
25	Oride, Aki; Kanasaki, Haruhiko; Tumurbaatar, Tuvshintugs; et al	婦人科	Impact of Ovariectomy on the Anterior Pituitary Gland in Female Rats	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENDOCRINOLOGY 2023 Mar;2023	Article
26	Okada, Hiroe; Kanasaki, Haruhiko; Tumurbaatar, Tuvshintugs; et al	婦人科	Hyperandrogenism induces proportional changes in the expression of Kiss-1, Tac2, and DynA in hypothalamic KNDy neurons	REPRODUCTIVE BIOLOGY AND ENDOCRINOLOGY 2022 Jun;20(1)	Article
27	Yamashita, Hitomi; Nakayama, Kentaro; Kanno, Kosuke; et al	婦人科	Identifying the Carcinogenic Mechanism of Malignant Struma Ovarii Using Whole-Exome Sequencing and DNA Methylation Analysis	CURRENT ISSUES IN MOLECULAR BIOLOGY 2023 Mar;45(3):1843-1851	Article
28	Maruyama, Mitsunari; Yoshizako, Takeshi; Yoshida, Rika; et al	放射線科	Increased future liver function after modified associating liver partition and portal vein ligation/embolization for staged hepatectomy	ACTA RADIOLOGICA OPEN 2022 Oct;11(10)(オンライン)	Article
29	Tamaki, Yukihisa; Aibe, Norihiro; Komiyama, Takafumi; et al	放射線治療科	Optimal Clinical Target Volume of Radiotherapy Based on Microscopic Extension around the Primary Gross Tumor in Non-Small-Cell Lung Cancer: A Systematic Review	CANCERS 2022 May;14(9)	Review

30	Hashimoto, Tatsuya; Mishima, Hirokazu; Sakai, Chika; et al	麻酔科	An exploratory study of factors associated with long-term, high-dose opioid prescription in cancer patients in Japan based on a medical claims database	SUPPORTIVE CARE IN CANCER 2022 Aug;30(8):6879-6888	Article
31	Mori, Hideaki; Hashimoto, Tatsuya; Nikai, Tetsuro; et al	麻酔科	Long-Term Exposure to Morphine Induces Cross-Tolerance to Acute Antinociceptive Effect of Remifentanyl on Somatic and Visceral Stimuli in Rats	JOURNAL OF PAIN RESEARCH 2022 Dec;15:4047-4054	Article
32	Kanasaki, Haruhiko; Tumurbaatar, Tuvshintugs; Cairang, Zhouma; et al	総合周産期母子医療センター	Impact of One-Week Administration of Dihydrotestosterone in Rat Anterior Pituitary Gland	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENDOCRINOLOGY 2022 Oct;2022	Article
33	Hadano, Yoshiro; Hijikata, Toshiyuki; Miura, Ayako; et al	感染制御部	Staphylococcus pettenkoferi bacteremia in a tertiary care hospital in Japan: Report of three cases	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY 2022 Oct;28(10):1424-1426	Article
34	Hadano, Yoshiro; Kosaka, Shintaro; Tomoda, Yoshitaka; et al	感染制御部	Infectious diseases consultations from general internal medicine physicians in Japan: A descriptive single-center study	MEDICINE 2022 Nov;101(47)	Article
35	Hadano, Yoshiro; Suyama, Asuka; Miura, Ayako; et al	感染制御部	Impact of the antimicrobial stewardship program on hospital-acquired candidemia	SCIENTIFIC REPORTS 2022 Sep;12(1)	Article
36	Abe, Satoshi; Onoda, Keiichi; Takamura, Masahiro; et al	高度脳卒中センター	Altered Feedback-Related Negativity in Mild Cognitive Impairment	BRAIN SCIENCES 2023 Feb;13(2)(オンライン)	Article
37	Watari, Takashi; Nakano, Yasuhisa; Gupta, Ashwin; et al	総合診療医センター	Research Trends and Impact Factor on PubMed Among General Medicine Physicians in Japan: A Cross-Sectional Bibliometric Analysis	INTERNATIONAL JOURNAL OF GENERAL MEDICINE 2022 Sep;15:7277-7285(オンライン)	Article
38	Watari, Takashi; Gupta, Ashwin	総合診療医センター	Comparing Japanese University Hospitals? and Community Healthcare Facilities? Research Contributions on PubMed	INTERNATIONAL JOURNAL OF GENERAL MEDICINE 2023 Mar;16:951-960(オンライン)	Article
39	Watari, Takashi; Tokuda, Yasuharu; Amano, Yu; et al	総合診療医センター	Cognitive Bias and Diagnostic Errors among Physicians in Japan: A Self-Reflection Survey	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENVIRONMENTAL RESEARCH AND PUBLIC HEALTH 2022 Apr;19(8)	Article

40	Watari, Takashi; Nagai, Nobuhiro; Kono, Kaori; et al	総合診療医センター	Background factors associated with academic motivation for attending medical school immediately after admission in Japan: A single-center study	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2022 May;23(3):164-171	Article
41	Watari, Takashi; Tokuda, Yasuharu	総合診療医センター	Japan: reform leadership in clinical medicine	NATURE 2022 Nov;611(7934):33-33	Letter
42	Watari, Takashi; Gupta, Ashwin; Kataoka, Hitomi	総合診療医センター	Representation of Gender and Postgraduate Experience Among Professional Medical Society Boards in Japan	JAMA NETWORK OPEN 2022 Dec;5(12)	Letter
43	Sakaguchi, Kota; Watari, Takashi; Tokuda, Yasuharu	総合診療医センター	Evidence-based prescription of corticosteroids for COVID-19 patients: A comparison between general medicine and other specialty in Japan	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2023 Mar;24(2):135-138	Article
44	Sakaguchi, K.; Watari, T.	総合診療医センター	Primary central nervous system lymphoma in an underdiagnosed HIV case	QJM-AN INTERNATIONAL JOURNAL OF MEDICINE 2022 May;115(7):476-477	Article
45	Takedani, Kai; Yamamoto, Masahiro; Tanaka, Sayuri; et al	内分泌代謝内科	ACTH-independent Cushing's syndrome due to ectopic endocrinologically functional adrenal tissue caused by a GNAS heterozygous mutation: a rare case of McCune-Albright syndrome accompanied by central amenorrhea and hypothyroidism: a case report and literature review	Front Endocrinol 2022 Jul 25;13:934748	Case Report
46	Otaki, Satomi; Kawabata, Yasunari; Nishi, Takeshi; et al	消化器内科	Extranodal Rosai-Dorfman Disease Involving the Pancreas A Case Report and Literature Review	PANCREAS 2022 Jul;51(6):e89-e91	Letter
47	Okuno, Takae; Kurimoto, Noriaki; Tanino, Akari; et al	呼吸器・化学療法内科	Usefulness of endocytoscopy in evaluating transbronchial biopsy specimens	THORACIC CANCER 2023 Jan;14(2):186-194	Article
48	Okuno, Takae; Nakashima, Kazuhisa; Mitarai, Yuki; et al	呼吸器・化学療法内科	Immune checkpoint inhibitor (ICI)-induced hepatitis diagnosed by liver biopsy followed by ICI-free chemotherapy leading to therapeutic effect: A case of lung cancer treatment	RESPIRATORY MEDICINE CASE REPORTS 2022 Nov;40	Article
49	Kawahara, Hiroshi; Watanabe, Nobuhide; Endo, Akihiro; et al	循環器内科	Subacute stent thrombosis with spontaneously resolved secondary thrombi in paroxysmal nocturnal hemoglobinuria: a case report	BMC CARDIOVASCULAR DISORDERS 2022 Sep;22(1)	Article

50	Morita, Yusuke; Kashima, Yoshifumi; Kanno, Daitaro; et al	循環器内科	Subintimal Tracking and Re-entry Technique for Stent-Jailed Side-Branch Occlusion	JOURNAL OF INVASIVE CARDIOLOGY 2022 Sep;34(9):E678-E682	Article
51	Ishitobi, Kazunari; Kotani, Hitoshi; Iida, Yuichi; et al	消化器外科	A modulatory effect of L-arginine supplementation on anticancer effects of chemoimmunotherapy in colon cancer-bearing aged mice	INTERNATIONAL IMMUNOPHARMACOLOGY 2022 Dec;113	Article
52	Nakagawa, Kyoko; Nakayama, Kentaro; Nakamura, Akiho; et al	産科婦人科	A Novel Case of Recurrent Mucinous Borderline Ovarian Tumor: Early Relapse and Fatal Outcome	REPORTS 2022 Jun;5(2) (オンライン)	Article
53	Yamane, Yukari; Mochiji, Mihoko; Ichioka, Sho; et al	眼科	Effects of water chestnut (<i>Tarpha bispinosa</i> Roxb.) extract/lutein on fingertip-measured advanced glycation endproduct/carotenoid levels	FREE RADICAL RESEARCH 2022 Apr;56(3-4):282-289	Article
54	Shimizu, Hiroshi; Shimizu, Masaki; Nakano, Toshiya; et al	眼科	Multimodal Imaging Findings in Retinopathy Associated with Facioscapulohumeral Muscular Dystrophy before and after Treatment with Intravitreal Aflibercept and Laser Photocoagulation	CASE REPORTS IN OPHTHALMOLOGY 2022 Jul;13(2):556-561	Article
55	Ichioka, Sho; Ishida, Akiko; Takayanagi, Yuji; et al	眼科	Roles of Toric intraocular Lens implantation on visual acuity and astigmatism in glaucomatous eyes treated with iStent and cataract surgery	BMC OPHTHALMOLOGY 2022 Dec;22(1)(オンライン)	Article
56	Ichioka, Sho; Ishida, Akiko; Sugihara, Kazunobu; et al	眼科	Isolated traumatic aniridia with full and partial iris expulsion in pseudophakic eyes	BMC OPHTHALMOLOGY 2022 Oct;22(1)(オンライン)	Article
57	Gobara, Aiko; Katsube, Takashi; Asou, Hiroya; et al	放射線科	T2 hypointense signal discovered incidentally at the posterior edge of the adenohypophysis on MRI: its prevalence and morphology and their relationship to age	NEURORADIOLOGY 2022 Sep;64(9):1755-1761	Article
58	Gobara, Aiko; Yoshizako, Takeshi; Yoshida, Rika; et al	放射線科	Radiological Features of T1a Renal Cell Carcinoma on Axial Unenhanced Computed Tomography	CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE 2023 Mar;15(3)(オンライン)	Review
59	Morioka, Reon; Okui, Tatsu; Kanayama, Junichi; et al	歯科口腔外科	Asystole induced by trigeminocardiac reflex during zygomatic fracture repositioning: A rare case report	JOURNAL OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY MEDICINE AND PATHOLOGY 2023 Mar;35(2):162-166	Article
60	Morioka, Reon; Matsuda, Yuhei; Kato, Akira; et al	歯科口腔外科	Oral functional impairment may cause malnutrition following oral cancer treatment in a single-center cross-sectional study	SCIENTIFIC REPORTS 2022 Aug;12(1)	Article

61	Fujimori, Taichi; Kijima, Tsunetaka; Honda, Satoshi; et al	卒後臨床研修センター	A Case of Acute Cerebral Infarction With Chief Complaints of Abdominal Pain and Bloody Diarrhoea: The Power of a Patient-Centered Inclusive Diagnostic Team	CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE 2022 Jul;14(7)(オンライン)	Article
62	Murakami, Kotaro; Tanaka, Yudai; Mishiro, Tsuyoshi; et al	卒後臨床研修センター	Gallstone Hepatitis Caused by Transient Common Bile Duct Obstruction in a Middle-Aged Woman	CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE 2022 Oct;14(10)(オンライン)	Article
63	Yamamoto, Yutaro; Ohta, Ryuichi; Tanaka, Yudai; et al	高度外傷センター	Localized Pancreatitis in an Elderly Patient Without Suspected Etiology	CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE 2022 Aug;14(8)(オンライン)	Article
64	Kawashima-Sonoyama, Yuki; Hotsubo, Tomoyuki; Hamajima, Takashi; et al	小児科	Various phenotypes of short stature with heterozygous IGF-1 receptor (IGF1R) mutations	CLINICAL PEDIATRIC ENDOCRINOLOGY 2022 Apr;31(2):59-67	Article
65	Hirahara, Noriyuki; Matsubara, Takeshi; Kaji, Shunsuke; et al	外科(消化器・総合外科学)	Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1 after curative esophagectomy following neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer	BMC CANCER 2022 Jun;22(1)	Article
66	Hirahara, Noriyuki; Matsubara, Takeshi; Hayashi, Hikota; et al	外科(消化器・総合外科学)	Features and applications of energy devices for prone robot-assisted minimally invasive esophagectomy: a narrative review	JOURNAL OF THORACIC DISEASE 2022 Sep;	Review
67	Yamada Kenji, Osawa Yoshimitsu, Kobayashia Hironori, et al	小児科	Clinical and molecular investigation of 37 Japanese patients with multiple acyl-CoA dehydrogenase deficiency: p.Y507D in ETFDH, a common Japanese variant, causes a mortal phenotype	Molecular Genetics and Metabolism Reports 2022 Dec;33(オンライン)	Article
68	Yang Jiahao, Liu Lu, Oda Yasuaki, et al	小児科	Highly-purified rapidly expanding clones, RECs, are superior for functional-mitochondrial transfer	Stem Cell Research & Therapy 2023 Mar; 16(14);11	Article
69	Yuki Uchida, Yuko Nariai, Eiji Obayashi, et al.	外科(消化器・総合外科学)	Generation of antagonistic monoclonal antibodies against the neoepitope of active mouse interleukin (IL)-18 cleaved by inflammatory caspases	Arch Biochem Biophys 2022 Sep;	Article
70	Noriyuki Hirahara, Takeshi Matsubara, Shunsuke Kaji, et al.	外科(消化器・総合外科学)	Novel inflammation-combined prognostic index to predict survival outcomes in patients with gastric cancer	Oncotarget 2023 Jan 31;14:71-82	Article

71	Noriyuki Hirahara, Takeshi Matsubara, Shunsuke Kaji, et al.	外科(消化器・総合外科学)	Correction: Influence of nutrition on stage-stratified survival in gastric cancer patients with postoperative complications	Oncotarget Oct 8;13:1092-1093	Article
72	Yasunari Kawabata, Yoshitsugu Tajima	外科(消化器・総合外科学)	Comment on “Perihilar cholangiocarcinoma—novel benchmark values for surgical and oncological outcomes from 24 expert centers”	HepatoBiliary Surgery and Nutrition 2022 Apr;11(2):314-31	Article
73	Nakao, Shuri; Tsujimoto, Yasushi; Fujiwara, Takeshi; Maniwa, Sokichi	リハビリテーション部	Key concerns regarding research on the effect of omeda-3 fortified oral nutrition on nutritional indices and quality of life in patients with gastrointestinal cancer.	Asian Pac J Cancer Prev 23: 1445-1445, 2022.	Letter
74	Maniwa, Sokichi; Michibata, Yuko; Kawamoto, Kohei; Noguchi, Akihito; Tadenuma, Taku; Sakai, Yasuo.	リハビリテーション科	Effect of Nordic walking in patients with hip osteoarthritis: a preliminary report from Japan.	Shimane J Med Sci 39: 63-58, 2022.	Article
75	Hadano Y, Hijikata T.	感染制御部	A fatal case of persistent bacteremia and acute cholecystitis caused by Staphylococcus aureus: A case report.	ID CASES. 2023 Jan 14;31	Article
76	Hadano Y, Suyama A, Hijikata T, Miura A, Fujii S, Suzuki Y, Tomoda Y, Awaya Y.	感染制御部	The importance of infectious disease specialists consulting on a weekly basis in a Japanese tertiary care hospital: A retrospective observational study.	MEDICINE. 2023 Jan ;102(1)	Article
77	Tanito, Masaki; Tsutsui, Aika; Manabe, Kaoru; et al.	眼科	Comparison of outflow facility before and after the microhook ab interno trabeculotomy	EYE 2022 Apr; 36(4): 760-765	Article
78	Shimada, Ayaka; Takayanagi, Yuji; Ichioka, Sho; et al.	眼科	Hallermann-Streiff syndrome diagnosed in the seventh decade of life	AMERICAN JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY CASE REPORTS 2022 May; 27 (オンライン)	Article
79	Tanito, Masaki; Takayanagi, Yuji; Ishida, Akiko; et al.	眼科	Linear association between aging and decreased blood thiol antioxidant activity in patients with cataract	JOURNAL OF CLINICAL BIOCHEMISTRY AND NUTRITION 2023 Jan; 72(1): 54-60	Article

80	Ishida, akiko; Miki, Takao; Naito, Tomoko; et al.	眼科	Surgical Results of Trabeculectomy among Groups Stratified by Prostaglandin Associated Periorbitopathy Severity	OPHTHALMOLOGY 2023 Mar; 130(3): 297-303	Article
81	Nagano N, Watari T, Tamaki Y, Onigata K, et al.	放射線治療科	Japan's Academic Barriers to Gender Equality as Seen in a Comparison of Public and Private Medical Schools: A Cross-Sectional Study.	Womens Health Rep (New Rochelle), 3(1):115-123., 2022	Article
82	Yusuke Morita, Junji Morita, Yusuke Kondo, Kazuaki Tanabe	循環器内科	Occurrence of Torsade de Pointes prior to complete lead connection during pacemaker implantation	Indian Pacing Electrophysiol J. 2022 Sep-Oct;22(5):254-257	Case Report
83	Hiroshi Kawahara, Akihiro Endo, Kazuto Yamaguchi, Hiroyuki Yoshitomi, Kazuaki	循環器内科	Myocarditis after the third dose of mRNA-1273 coronavirus disease 2019 (COVID-19) vaccine	Circ Rep 2022;4:388-389	Case Report
84	Junya Tanabe, Nobuhide Watanabe, Mayuna Ito, Keizo Kanasaki, Kazuaki Tanabe	循環器内科	Differentiating immune-related adrenal insufficiency from low cardiac output syndrome: a case report	Cureus. 2022 Nov; 14(11): e31349	Case Report
85	Taiji Okada, Toshihiko Asanuma, Satoshi Nakatani, Kazuaki Tanabe	循環器内科	Ultrasound beam angle-independent evaluation of left ventricular filling pressure using three-dimensional speckle-tracking echocardiography	European Heart Journal - Cardiovascular Imaging (2023) 24, e54-e56	Article
86	Yu A, Imade S, Furuya S, et al.	整形外科	Relationship between thread depth and fixation strength in cancellous bone screw.	J Orthop Sci. 2022 Aug 8:S0949-2658(22)00189-0. doi: 10.1016/j.jos.2022.07.003 . Epub ahead of print.	Article
87	Keizo Kanasaki	内分泌代謝内科	Nutrient-derived modification of mineral corticoid receptors is relevant to diabetic kidney disease progression.	Hypertension Research 2023 Jan;46(1):261-263	Review
88	Masakazu Notsu, Keizo Kanasaki	内分泌代謝内科	Tumor progression with thyrotoxicosis on differentiated thyroid carcinoma due to thyrotropin receptor stimulation: is tyrosine kinase inhibitors the cause of thyroid stimulating hormone receptor antibody positivity?	Annals of Palliative Medicine.2022 Sep;11(9):2806-2809.	Letter

89	Hirofumi Makino, Masakazu Notsu, Itsuko Asayama, Hazuki Otani, Miwa Morita, Masahiro Yamamoto, Mika Yamauchi, Mika Nakao, Hitomi Miyake, Asuka Araki, Shinya Uchino, Keizo Kanasaki	内分泌代謝内科	Successful Control of Hypercalcemia with Sorafenib, Evocalcet, and Denosumab Combination Therapy for Recurrent Parathyroid Carcinoma.	Intern Med2022 Nov 15;61(22):3383-3390.	Case Report
90	Yasuha Mihara, Koji Otsuki, Mai Hayashi, Satoko Yamashita, Michiharu Nagahama, Maiko Hayashida, Rei Wake, Sadayuki Hashioka, Satoshi Abe, Masatoshi Inagaki	精神科神経科	Improvement in both severe obsessive-compulsive disorder and refractory tardive dystonia following electroconvulsive therapy: A case report	PCN Reports. 2022;e15.	Article
91	Mai Hayashi, Koji Otsuki, Shoko Miura, Yasuha Mihara, Satoshi Abe, Masatoshi Inagaki	精神科神経科	Delayed encephalopathy after carbon-monoxide poisoning treated with corticosteroid monotherapy: case report	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Nov;76(11):600-602	Letter
92	Kazuya Okamura, Rika Yoshida, Takeshi Yoshizako and Hajime Kitagaki	放射線科	Pseudohemothorax induced by residual contrast medium mimicking aortic dissection rupture	Acta Radiologica Open 11(4)	Case Report
93	Shota Tanaka, Rika Yoshida, Takeshi Yoshizako, Hajime Kitagaki	放射線科	Clinicoradiological Characteristics of Gastric Metastases: A Single Center Retrospective Study	Cureus 2022 Oct 29;14(10)	Article

94	Maruyama M, Aso H, Araki H, Yoshida R, Ando S, Nakamura M, Yoshizako T.	放射線科	Improvement in local vascular perfusion of the lower extremities on intravoxel incoherent motion imaging: A case report	Radiology Case Repprts 2022 Sep 15;17(11):4319- 4322	Case Report
95	Mitsunari Maruyama, Haruyuki Takaki, Naoko Yamada, Yutaka Hirata , Koichiro Yamakado , Hajime Kitagaki:	放射線科	Liver regeneration after portal vein embolization: comparison between absolute ethanol and N-butyl- cyanoacrylate in an in vivo rat model	Diagn Interv Radiol . 2023 Jul 20;29(4):621- 627	Article
96	Mitsunari Maruyama, Hiroya Aso, Hisatoshi Araki, Rika Yoshida, Shinji Ando, Megumi Nakamura, Takeshi Yoshizako, Yasushi Kaji:	放射線科	Three-dimensional velocity vector image obtained via 4-dimensional flow magnetic resonance imaging for in- stant flow visualization in the superficial femoral artery	Radiology Case Reports 18(3):1302-1305. 2023.01	Case Report
97	Watari Takashi,, Schiff D Gordon.	総合診療医センター	Diagnostic excellence in primary care.	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2023 Mar 20;24(3):143- 145	Review
98	Watari Takashi, Votruba K.	総合診療医センター	A letter from a patient: Awareness regarding medical errors and patient engagement	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2022 Nov 28;24(1):1-2	Letter
99	Watari Takashi, Tokuda Y	総合診療医センター	Role of Japan's general physicians in healthcare quality improvement and patient safety.	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2022 Apr 1;23(3):137-139	Review
100	Watari Takashi, Tokuda Y, Takahashi H, Taniguchi K, Shibuya K	総合診療医センター	Analysis of hydroxychloroquine prescriptions for COVID-19 in Japan	JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE 2023 Feb 27;24(3):199- 200.	Article
101	Watari Takashi, Tokuda Y, Taniguchi K, Shibuya K.	総合診療医センター	Incidence of and Ivermectin Prescription Trends for COVID-19 in Japan.	JOURNAL OF GENERAL INTERNAL MEDICINE	Article

102	Nakano Yasuhisa, Watari Takshi, Adachi K, Watanabe K, Otsuki K, Amano Y, Takaki Y, Onigata K.	総合診療医センター	Survey of potentially inappropriate prescriptions for common cold symptoms in Japan: A cross-sectional study	PLoS One. 2022 May 12;17(5):e0265874.	Article
103	Endo Takeshi, Watari Takashi	総合診療医センター	A Rare Presentation of a Compression Fracture or a Typical Presentation of Lateral Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Diagnostic Error?	INTERNAL MEDICINE 2022 May 1;61(9):1453-1455.	Case report
104	Sakaguchi, K.; Watari, T.	総合診療医センター	Early Diagnosis of Intravascular Large B-Cell Lymphoma by Random Skin Biopsy	Eur J Case Rep Intern Med. 2022 Jul 26;9(7):003497. doi: 10.12890/2022_003497. PMID: 36051170; PMCID: PMC9426967.	Article
105	Yamakawa, Sho; Suda, Shota; Hayashida, Kenji.	形成外科	A New Lower Eyelid Reconstruction Using Transverse Facial Artery Perforator Flap Based on Anatomical Study.	JOURNAL OF PLASTIC, RECONSTRUCTIVE & AESTHETIC SURGERY 2023 Feb;77:39-45	Article
106	Hayashida, Kenji; Suda, Shota; Yamakawa, Sho	形成外科	Surgical Management for Foul-Smelling Wounds	International Journal of Surgical Wound Care 2022 Dec;3(4):149-151	Others
107	Tanaka, Kotaro; Ogino, Ryohei; Yamakawa, Sho; et al.	形成外科	Role and Function of Mesenchymal Stem Cells on Fibroblast in Cutaneous Wound Healing	Biomedicines 2022 Jun 12;10(6):1391	Review
108	Sheikh AM, Yano S, Tabassum S, Mitaki S, Michikawa M, Nagai A	臨床検査科	Alzheimer's Amyloid β Peptide Induces Angiogenesis in an Alzheimer's Disease Model Mouse through Placental Growth Factor and Angiopoietin 2 Expressions.	Int. J. Md. Sci 2023 Feb, 24,4510	Article
109	Sheikh AM, Yano S, Mitaki S, Tabassum S, Yamaguchi S, Nagai A	臨床検査科	Rho-Kinase inhibition decreases focal cerebral ischemia-induced glial activation in rats.	J Cent Nerv Syst Dis 2022 Sep, 8,14	Article
110	Kobayashi M, Kurimoto N, Mitarai Y, et al.	呼吸器・化学療法内科	An endobronchial hamartoma observed using narrow band imaging under saline injection: A case report	Respirology Case Report 2022 Jun (オンライン)	Case Report
111	Kobayashi M, Kurimoto N, Tanino R, et al.	呼吸器・化学療法内科	Comparison of Ultra-Magnifying Endocytoscopic and Hematoxylin-Eosin-Stained Images of Lung Specimens	Diagnostics 2023 Mar:13(5), 1003	Original article

112	Rui Kawaguchi, Taka-aki Nakada, Noriyuki Hattori, Keisuke Tomita, Daiki Saito, Masayoshi Shinozaki, Toshiya Nakaguchi	高度外傷センター	Intravascular fluid also affects results: No prolongation of capillary refill time by removal of excessive fluids by hemodialysis	The American Journal of Emergency Medicine Volume 60, October 2022, Pages 187-188	Comment
113	Cha N, Oshima N, Kishimoto K, Kotani S, Okimoto E, Yazaki T, Sonoyama H, Oka A, Mishima Y, Shibagaki K, Tobita H, Kawashima K, Ishimura N, Ishihara S	消化器内科	Long-lasting renal dysfunction following tacrolimus induction therapy in ulcerative colitis patients	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 2022 may; 70(3): 297-303	Article
114	Kishimoto K, Shibagaki K, Nonomura S, Sumi S, Fukuda N, Takahashi Y, Kotani S, Okimoto E, Oshima N, Kawashima K, Ishimura N, Ishihara S	消化器内科	Heterotopic gastric mucosa in middle esophagus complicated with esophageal ulcers	Internal Medicine 2022 September; 61(18): 2735-2740	Article
115	Mishiro T, Shibagaki K, Fukuyama C, Kataoka M, Notsu T, Yamashita N, Oka A, Nagase M, Araki A, Kawashima K, Ishimura N, Maruyama R, Kinoshita Y, Ishihara S	消化器内科	KLF4 mutation shapes pathologic characteristics of foveolar-type gastric adenoma in Helicobacter pylori-naivePatients	The American Journal of Pathology 2022 September; 192(9): 1250-1258	Article
116	Oka A, Awoniyi M, Hasegawa N, Yoshida Y, Tobita H, Ishimura N, Ishihara S.	消化器内科	Superior mesenteric artery syndrome: Diagnosis and management	World J Clin Cases. 2023 May 26;11(15):3369-3384	Article

117	Shibagaki K, Itawaki A, Miyaoka Y, Kishimoto K, Takahashi Y, Kotani S, Mishiro T, Oshima N, Kawashima K, Ishimura N, Onuma H, Nagasaki M, Nagase M, Araki A, Kadota K, Kushima R, Ishihara S.	消化器内科	Intestinal-type gastric dysplasia in Helicobacter pylori-naïve patients.	Virchows Arch. 2022 Apr;480(4):783-792	Article
118	Okimoto E, Ishimura N, Adachi K, Kinoshita Y, Ishihara S, Tada T.	消化器内科	Application of Convolutional Neural Networks for Diagnosis of Eosinophilic Esophagitis Based on Endoscopic Imaging.	J Clin Med. 2022 Apr 30;11(9):2529	Article
119	Akira Kato, Yuhei Matsuda, Reon Morioka, et al	歯科口腔外科	Discrepancy between subjective and objective postoperative oral dysfunction assessment after oral cancer treatment: a single-center cross-sectional study	Oral Oncology, 2022 Jun;129:105879	Article
120	Yuhei Matsuda, Ruwan Jayasinghe, Hui Zhong, et al	歯科口腔外科	Oral health management and rehabilitation for patients with oral cancer: A narrative review	Healthcare. 2022, May 23;10(5):960	Article
121	Yuhei Matsuda, Tatsuo Okui, Hiroto Tatsumi, et al	歯科口腔外科	Oral dysfunction in patients with oral cancer could occur before treatment and require early nutritional improvement: A cross-sectional study	Dysphagia.2023;38(4):1096-1105	Article
122	Ichiro Kaneko, Masaaki Karino, Rie Osako, et al	歯科口腔外科	A rare case of facial asymmetry caused by simultaneous development of osteochondroma and synovial chondromatosis at the temporomandibular joint	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, 2023 March 35(2): 147-152	Article
123	Satsuki Watanabe, Yuhei Matsuda, Yui Nanba, et al	歯科口腔外科	Fast eating speed could be associated with HbA1c and salt intake even after adjusting for oral health status: a cross-sectional study	Healthcare 2023, 11(5), 646	Article
124	Takashi Koike, Ryuichi Ohta, Yuhei Matsuda, et al	歯科口腔外科	Oral Care Awareness and Factors Related to the Burden of Nurses at a Community Hospital in Japan	Healthcare (Basel) . 2022 Jun 9;10(6):1073	Article

125	Mrunalini Ramanathan, Elavenil Panneerselvam, Anantanarayanan Parameswaran, Takahiro Kanno	齒科口腔外科	Genioplasty in Contemporary Orthognathic Surgery	Oral Maxillofac Surg Clin North Am . 2023 Feb;35(1):97-114	Article
126	Morita E, Matsuo H, Kohno K, Yokooji T, Yano H, Endo T.	皮膚科	A Narrative Mini Review on Current Status of Hypoallergenic Wheat Development for IgE-Mediated Wheat Allergy, Wheat-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis.	Foods. 2023 Feb 23;12(5):954.	Review
127	Morita E, Chinuki Y, Kohno K, Matsuo H.	皮膚科	Cofactors of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis increase gastrointestinal gliadin absorption by an inhibition of prostaglandin production.	Clin Exp Allergy. 2023 Mar;53(3):359-361.	Article
128	Tokiko Yoshida, Eishin Morita, Yuko Chinuki, Kunie Kohno, Osamu Yamasaki	皮膚科	Usefulness of Gly m 4-specific IgE test in the diagnosis of Rosaceae fruit-oral allergy syndrome caused by Betulaceae pollen sensitization	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy Volume 6, Issue 2	Article
129	Fukushiro M, Chinuki Y, Ota M, Honda S, Yamasaki O.	皮膚科	Reddish Tumour with Scar on the Right Thigh: A Quiz.	Acta Derm Venereol. 2022 Jul 7;102:adv00747.	Other
130	Tsuboi I, Yokoyama S, Nakajima H, Yosioka S, Kobayashi Y, Nagami T, Ogawa K, Wada K.	泌尿器科	Cut-to-the-light technique is useful for complete obstruction of a Wallace ureteroileal anastomosis.	IJU Case Rep.	Article
131	Yokoyama S, Tsuboi I, Ogawa K, Yoshioka S, Kobayasi Y, Nakajima H, Nagami T, Yamasaki S, Wada K.	泌尿器科	Isolated rupture of the corpus spongiosum with urethral injury diagnosed by pre-surgical MRI.	IJU Case Rep.	Article

132	Sasamori H, Nakayama K, Razia S, et al	婦人科	Mutation Profiles of Ovarian Seromucinous Borderline Tumors in Japanese Patients	Curr Oncol. 2022 May 18;29(5):3658-3667.	Article
133	Nonomura Y, Nakayama K, Nakamura K, et al	婦人科	Ovarian Endometrioid and Clear Cell Carcinomas with Low Prevalence of Microsatellite Instability: A Unique Subset of Ovarian Carcinomas Could Benefit from Combination Therapy with Immune Checkpoint Inhibitors and Other Anticancer Agents	Healthcare (Basel). 2022 Apr 7;10(4):694.	Article
134	Fujimori T, Kijima T, Honda S, et al	総合医療学	A Case of Acute Cerebral Infarction With Chief Complaints of Abdominal Pain and Bloody Diarrhoea : The Power of a Patient-Centered Inclusive Diagnostic Team.	Cureus.14(7): e27386. 2022.	Case Report
135	Tsunetaka Kijima, Shuko Ishida, Takashi Kishi, et al	総合医療学	Bowel intussusception and adhesive intestinal obstruction in neurofibromatosis type 1	Journal of General and Family Medicine 2022.4.11	Case report
136	Shunichi Hamaguchi, Yasuyuki Taooka, Akari Tanino, et al	総合医療学	Validation of IPAG Questionnaire for Chronic Obstructive Pulmonary Disease in Shimane Prefecture	Shimane Journal of Medical Science 2022.11.21	Original Article
137	Nishikawa, Kasumi; Ohta, Ryuichi; Sano, Chiaki.	卒後臨床研修センター	Factors Associated with Motivation for General Medicine among Rural Medical Students: A Cross-Sectional Study	INTERNATIONAL JOURNAL OF ENVIROMENTAL RESEARCH AND PUBLIC HEALTH 2022 Apr;19(9)	Article
138					

計137件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
医学系研究として申請されたものについては、島根大学医学部医学研究倫理委員会（【②—1】）において審査を行う。 臨床研究法における臨床研究として申請されたものについては、島根大学医学部附属病院臨床研究審査委員会（厚生労働大臣による認定済み）（【②—2】）において審査を行う。 <手順書の主な内容> 委員会の責務、構成、審査・報告事項、審査方法、審査・報告の受付、会議の招集と議長、成立要件、審査手順、議事要旨の作成、審査結果の通知、審査後の対応、他の研究機関からの審査依頼、記録の保管 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	【②—1】年 13回 【②—2】年 9回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的、対象及び基準、委員会の設置、委員会所掌事項、審査・結果に基づく要請、守秘義務等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 20回
・ 研修の主な内容 医学系研究基本講習（年 8回） 生命科学・医学系研究の基本原則、各種手続きについて 臨床研究・統計セミナー（年 12回） 臨床研究の方法論について（継続的な研修）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした研修指導医数の豊富な臨床研修施設であり、卒前卒後のシームレスな医学教育を提供し、地域病院間ネットワークを有する基幹病院として新専門医制度に対応した後期研修プログラムを提供可能である。

プログラム作成には若手医師のキャリア形成支援を担当するしまね地域医療支援センター、各診療科、県内医療機関等が連携して、基本領域の専門医やサブスペシャリティの専門医、あるいは同時に医学博士の学位取得を目標とした後期研修プログラムを作成している。また、新専門医制度に対応した体制整備を行った。

2 研修の実績

研修医の人数	90人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
金崎 啓造	内分泌代謝内科	科長	28年	
鈴木 律朗	血液内科	科長	34年	
田村 研治	腫瘍内科	科長	31年	
石原 俊治	消化器内科	科長	35年	
飛田 博史	肝臓内科	科長	24年	
長井 篤	脳神経内科	科長	35年	
一瀬 邦弘	膠原病内科	科長	20年	
礪部 威	呼吸器・化学療法内科	科長	37年	
神田 武志	腎臓内科	科長	26年	
田邊 一明	循環器内科	科長	37年	
山崎 修	皮膚科	科長	30年	
竹谷 健	小児科	科長	26年	
平原 典幸	消化器外科	科長	30年	
日高 匡章	肝・胆・膵外科	科長	23年	
久守 孝司	小児外科	科長	35年	
板倉 正幸	乳腺・内分泌外科	科長	38年	
山崎 和裕	心臓血管外科	科長	30年	
山根 正彦	呼吸器外科	科長	27年	
内尾 祐司	整形外科	科長	37年	
林 健太郎	脳神経外科	科長	27年	
和田 耕一郎	泌尿器科	科長	21年	
稲垣 正俊	精神科神経科	科長	24年	
京 哲	産科	科長	37年	
京 哲	婦人科	科長	37年	
坂本 達則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	28年	
谷戸 正樹	眼科	科長	28年	
楳 靖	放射線科	科長	34年	
玉置 幸久	放射線治療科	科長	21年	
二階 哲朗	麻酔科	科長	29年	
岩下 義明	救急科 (救命救急センター)	センター長	17年	

渡部 広明	救急科 (高度外傷センター)	センター長	29年
菅野 貴浩	歯科口腔外科	科長	22年
矢野 彰三	臨床検査科	科長	29年
門田 球一	病理診断科	科長	20年
馬庭 壯吉	リハビリテーション科	科長	35年
牧石 徹也	総合診療科	科長	26年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 椎名 浩明
管理担当者氏名	検査部長 矢野 彰三、放射線部長 楫 靖、手術部長 二階 哲朗 薬剤部長 直良 浩司、看護部長 川上 利枝、総務課長 山崎 健治 医療サービス課長 山崎 志保、会計課長 佐々木 敏幸

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療サービス課 手術部 薬剤部 検査部 放射線部 看護部	カルテ等の病歴資料は、入院・外来別に1患者1ファイル方式で管理し、エックス線写真は放射線部で患者毎に管理している。なお、平成18年9月の電子カルテ導入後、電子化されたものは病院情報管理システムのデータベース上で、患者IDをキーにして管理されている。 ○診療録を病院外へ持ち出す際の取扱い ・紙診療録は、医学部外に帯出しないこととして、閲覧者への遵守事項としている。 ・電子的に保存された診療録及び診療記録に係る情報の利用は、本院が定める利用要項に基づいた申請により、了承されたものとしており、原則学外へ持ち出すことを禁じている	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書					
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課		
		高度の医療の提供の実績	医学部医療サービス課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課 医学部会計課		
		高度の医療の研修の実績	医学部総務課		
		閲覧実績	医学部医療サービス課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医療サービス課		
	規則第一条の十	一	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医療サービス課及び薬剤部	
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医学部医療サービス課	
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医学部医療サービス課	

		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医療サービス課	
--	--	--	------------	--

		保管場所		管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医学部医療サービス課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医学部医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医学部医療サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	医学部医療サービス課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医学部医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医学部医療サービス課
		監査委員会の設置状況	医学部医療サービス課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医学部医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医学部医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
		職員研修の実施状況	医学部医療サービス課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医学部医療サービス課
管理者が有する権限に関する状況	医学部総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医学部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医学部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 浦田 明宏
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 山崎 志保
閲覧の求めに応じる場所	・附属病院2階カルテ閲覧室
閲覧の手続の概要 紙診療録の閲覧を希望する者は、診療録閲覧申込書に所要事項を記入し病歴担当者へ申し出た上で、カルテ閲覧室において閲覧する。閲覧後は、病歴担当者へ返却する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 患者中心の医療の実践 2 医療安全に関する組織的な取り組み 3 インシデントの報告と情報の共有 4 機能する医療事故防止対策 5 適切な医療事故への対応 6 患者相談の実施、指針等の閲覧 7 医療安全教育、啓発、職員研修 8 医療安全管理マニュアル等の作成、更新 9 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等による医療の提供に関する評価 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理委員会 <ol style="list-style-type: none"> 1 医療事故等の原因究明のための調査及び分析並びに医療安全の確保を目的とした改善の方策の立案及び実施並びに周知に関すること。 2 医療事故等の改善の方策の実施状況の調査及びその方策の見直しに関すること。 3 医療事故に係る患者及びその家族への対応に関すること。 4 安全管理のための職員の教育・研修に関すること。 5 医薬品の安全使用に関すること。 6 医療機器の安全使用に関すること。 7 診療用放射線に係る安全管理に関すること。 8 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等に関すること。 9 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等に関すること。 10 その他医療の安全管理に関すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全を考える月間、医療安全推進週間について ・ 医療安全訪問について ・ 入院患者が死亡した場合、若しくは、死亡以外の場合であつて、通常の経過では必要ない処置又は治療が必要になった場合、医療安全管理部へ報告する。医療安全管理部で検証した結果を病院長へ報告し、当該委員会に提出する。 ・ 上記の従事者の報告が不十分な場合、適切な報告のため、指導を行う。 2 リスクマネジャー会議 <ol style="list-style-type: none"> 1 安全確保のために点検の実施に関すること。 	

<ul style="list-style-type: none"> 2 当該診療科等の構成員に対し、安全確保のための指導の実施に関すること。 3 リスクマネジャー会議への参画に関すること 4 その他、医療事故防止に関すること。 	
<p>③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況</p>	<p>年 2 回</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 1. 集合研修+オンデマンド 「自衛隊大規模接種会場におけるリスクマネージメント」 2. オンデマンド「インシデント報告の重要性」 「報告書管理確認対策」 「病院機能評価模擬審査での指摘事項を受けて」 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1 インシデントレポートを分析し、対応策についてリスクマネジャー会議で周知 2 院内ラウンドの強化 3 リスクまねじめんと通信に毎月の事例の内容を盛り込んで発行 4 インシデントレポート入力方法に対する研修会を実施 5 分析ツールを用いた事例の分析と評価の件数を増加させるため部署内のカンファレンスに専任リスクマネジャーが参加 6 インシデントレポート内容の要約について各部署への提供 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的考え方 2 院内感染対策のための委員会等の組織 3 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7 院内における感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 感染制御部の運営、業務の企画に関すること 2 感染の予防に関すること 3 予防対策実施の指導に関すること 4 感染予防の教育に関すること 5 院内感染の原因調査、経過の追跡、整理及び分析等に関すること 6 抗菌薬適正使用・教育に関すること 7 その他感染対策に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員研修 <ul style="list-style-type: none"> 第1回感染対策研修（e-ラーニング研修） 「感染経路と感染経路別予防策」「標準予防策1」「標準予防策2」 第2回感染対策研修（オンデマンド研修） 「感染経路別予防策と標準予防策」「予防接種」「環境管理」 2 個別研修会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回抗菌薬適正使用研修（オンデマンド研修） 「抗微生物薬適正使用の手引きの活用と外来における抗菌薬適正使用」 第2回抗菌薬適正使用研修（オンデマンド研修） 「外来をふくめたAMR対策と抗菌薬適正使用」 医科研修医・歯科研修医オリエンテーション 「院内感染予防対策」 新入職者オリエンテーション（看護師） 「感染対策の基本」 新入職者オリエンテーション（その他コメディカル） 「感染対策の基本」 ナーシングアテンダント新規採用時研修 「当院の感染対策について」 第3回看護助手会 「感染対策について」 看護師新規採用時研修 「当院における感染対策について」 看護師新規採用時研修 「当院における感染対策について」 感染対策研修（外部委託業者） 中途採用者のための「医療安全及び感染対策」研修会 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

- 1 週1回開催するミーティング時に、感染情報Webを展開して感染症状況、抗菌薬使用状況を分析し、それに基づき指導内容をカルテ記載する。感染対策は現場で確認し指導を行う
- 2 必要時に関係者を招集し会議を開催、発生の原因を分析・協議し、改善策の立案および実施の指導並びに他部署への周知を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医員研修会：薬剤部の業務について，処方せん記載・麻薬取扱について 2. 採用者入職時研修：新任者のための薬剤管理 3. フェンタニルレスキュー製剤について 4. 医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために」 5. 新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理 （薬剤部内の研修会） <ul style="list-style-type: none"> 製品説明会/病棟・部署研修会等：年 38 回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟・部署別研修会（18回） ・ マネジメントレビュー全体会議（1回） ・ 製品説明会（18回） ・ 中国四国支部学術大会リハーサル（1回） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p style="margin-left: 40px;">別紙1のとおり</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1 腎移植前のリツキサンの投与（適応外使用）による脱感作療法 2 再発横紋筋肉腫に対するビノレルビンの投与 3 肝区域同定のためのインドシアニングリーン静脈内投与 4 子宮頸部腺癌に対するトラスツズマブ エムタンシンの適応外使用 5 急性肝不全に対するN-アセチルシステイン投与 6 オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症の高アンモニア血症に対する安息香酸ナトリウムの点滴治療 7 オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症の高アンモニア血症に対する安息香酸ナトリウムの内服治療 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 未承認、適応外、禁忌（以下、未承認等）に該当する医薬品の使用 <ul style="list-style-type: none"> ○ 未承認医薬品の新規採用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。 ○ 未承認等の医薬品の使用を行うための手続き 	

- ・ 医師は、未承認等に該当する医薬品の使用を行う場合、別に規定する手順に従って、担当部門への申請、使用および報告を行う。

○ 未承認等の医薬品の使用状況の把握

- ・ 上記手続きにより使用が認められた未承認医薬品については、処方オーダーリングシステムにおいて患者限定・医師限定・診療科限定等の処方制限を設け、処方に際して薬剤部で患者登録を行うことにより、使用状況を把握する。
- ・ 調剤および処方の確認を行う際に、薬剤師は未承認等の医薬品の使用を可能な限り把握する。未承認等の医薬品の新規患者への処方を認めた場合、使用についての院内承認の有無、処方理由およびその根拠を確認、必要に応じて代替薬等を提案する。それらの内容をカルテに記載するとともに、薬剤師介入事例データベースに登録することにより、使用状況を把握する。
- ・ 医薬品安全管理責任者が指名した医薬品情報管理室の担当薬剤師ならびに医療安全管理部専従薬剤師は、上記により把握した未承認等の医薬品の使用状況を医薬品安全管理責任者に定期的に報告し、必要に応じて医師等に対する指導や未承認等の医薬品の使用に関する情報の院内への通知を行う。

2. 医薬品情報の収集・管理

○ 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム等の収集

- ・ 医薬品の新規採用時に、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要等の安全性に関する情報及び外観等の取り間違い防止に関する情報を入手する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報が発せられたときには、PMDA メディナビ、製薬会社等より速やかに情報収集を行い、状況を把握する。
- ・ 添付文書改訂については、DSU (Drug Safety Update : 医薬品安全対策情報) 等により改訂情報を把握し、改訂時には新添付文書及び改訂内容を解説した使用上の注意の改訂のお知らせを当該医薬品の製造販売業者より入手する。
- ・ 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。

○ 医薬品情報の保管

- ・ 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。

○ 医薬品情報のメンテナンス

- ・ 医薬品集は薬事専門部会にて採用品目及び採用区分が決定した後に更新する。また、その薬剤情報については月1回更新する。
- ・ 採用医薬品リスト（院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ））の改訂を薬事専門部会毎に行う。
- ・ 医薬品情報変更時には、薬剤部に保管する添付文書、インタビューフォーム等の更新を行う。
- ・ 処方オーダーシステムで提供する医薬品情報のメンテナンスを月1回行う。
- ・ 相互作用データ（併用禁忌薬等）のメンテナンスを行う。

○ 副作用情報の収集

- ・ 院内医療関係者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。薬剤部長のもとで、加えるべき事項があれば追記し、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に送付するとともに、薬剤部で一括管理する。報告された副作用情報は薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- ・ 病棟薬剤師は、特に新規採用薬について副作用モニタリングを行いカルテに記載する。医薬品情報管理室にて副作用報告を抽出し、必要に応じてPMDAに報告するとともに薬事専門部会で評価し、対応を検討する。

○ 医薬品回収情報

- ・ 製薬企業の自主回収及び行政からの回収命令が出された際には、速やかに以下の情報を入手する。
（資料作成年月日、種別、クラス分類、一般名及び販売名、対象ロット、数量、出荷時期、製造業者名等名称、回収理由、危惧される具体的な健康被害、回収開始年月日、効能・効果又は用途等、その他出荷先の把握状況、担当者名及び連絡先等）
- ・ 必要に応じ各部門、各職種へ情報提供を行う。

○ 病棟薬剤師との情報共有

- ・ 定期的（原則 2 週に 1 回）に医薬品情報管理室及び臨床薬剤・試験研究室が主体となり薬剤部内カンファレンスを開催し、病棟薬剤業務を行うために必要な情報（新規採用医薬品の医薬品情報、使用上の注意等）を病棟薬剤師と共有する。

3. 院内における医薬品の使用状況の定期的な確認

○ 医薬品処方状況の把握

- ・ 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。また、必要に応じて、品目毎の処方患者、医師、処方量、処方日数などの情報を病院情報管理システムよりダウンロードすることで、より詳細な処方状況を把握する。

○ 医薬品の使用状況の定期的な確認

- ・ 毎月、DSUにおける「最重要」、「重要」に該当する薬剤について、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と協議し、使用状況を確認する薬剤を決定する。
- ・ DSU 発出 3 ヶ月後（4 月発出では 7 月）に、使用状況の確認が必要と判断された薬剤について過去 3 ヶ月間の使用状況を上記「医薬品処方状況の把握」に従って確認する。
- ・ 薬剤部長との協議において調査期間の延長が必要と判断されれば、さらに遡って確認する。
- ・ 把握した使用状況に基づき、DSU における記載事項について遵守状況を確認する。

4. 医薬品情報の周知及び周知状況の確認

○ 医薬品情報の提供

- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報を総務課総務係より院内各部門へ配布する。
- ・ DSU を医療サービス課より院内各部門に配布する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報を医療サービス課より院内各部門に配布する。
- ・ 医薬品の新規採用等に関する情報について、医療サービス課より院内各部門に配布する。
- ・ その他、PMDA メディナビ等により入手した厚生労働省からの通知などについて、内容に応じて医療サービス課より院内各部門に配布する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）に掲載し、参照可能とする。
- ・ 全採用医薬品の添付文書情報（抜粋）を処方オーダシステムで提供する。
- ・ 新規採用医薬品について、各診療科、各病棟、中央・特殊診療施設及び保険薬局に医薬品情報、使用開始日、使用条件等の情報を文書で提供するとともに院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）へ掲載する。

○ 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂時の対応

- ・ 上記「医薬品処方状況の把握」に従って、病院情報管理システムよりオーダ情報のダウンロードを行い、当該医薬品処方患者の過去 3 ヶ月間の使用状況を確認する。

- ・ 収集した情報にて医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と対応を協議する。
 - ・ 院内通知が必要であれば通知する診療科を検討し、院内通知を行う。処方医ごとの患者リスト（処方患者が多い場合は診療科ごとのリスト）を作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼し、押印を得る。
 - ・ 入院中の当該患者については上記の対応に加え、診療科ごとのリストをもとに診療科担当薬剤師にて診療科への情報提供ならびに副作用等の発現状況の確認を行う。確認終了後、担当薬剤師はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
 - ・ 院内通知発出作業記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。
- 定期的な確認結果を踏まえた医薬品情報の周知及び周知状況の確認
- ・ 周知方法は緊急安全性情報、安全性速報に準じて行う。
 - ・ 「最重要」、「重要」にある内容が遵守されている場合、院内通知は不要とし、院内通知発出作業記録に「適当に使用されていた」旨を明記する。
 - ・ 「最重要」、「重要」にある内容が遵守されていない場合、院内通知を行う。
 - ・ 通知後の遵守状況についてはさらに3ヶ月後に確認を行い、必要に応じ再通知を行う。
- 院内通知発出記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務の実施状況

(業務の主な内容)

1. 医薬品の採用

- ・ 医薬品の新規採用に際しては、用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、保管・管理上の注意、使用上の注意に関する問題点を抽出し、問題点がある場合には対策を検討して当該医薬品を適正かつ安全に使用できるよう適切に対処する。
- ・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。

2. 医薬品の購入

- ・ 納品書と納入医薬品を照合し、商品名、剤形、規格単位、メーカー、包装単位、数量、製造番号、有効（使用）期限を確認する。
- ・ 納入医薬品の破損の有無及び外観異常を検査する。
- ・ 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第1種、第2種）、毒薬、劇薬、特定生物由来製品などの規制医薬品の納入時には、関連する法規に基づき対応する。

3. 調剤室における医薬品の管理

- ・ 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行うとともに、外観類似薬は配置場所を離す、同一銘柄が複数存在する場合は規格の色やデザインを変えて規格が複数あることが判るようにする、類似名称薬品には、「類似薬品名注意」等の表示を行って注意喚起するなどの対応をとる。
- ・ 温度、遮光等の保管条件のある医薬品は、それぞれの保管条件を確認し、適切な場所に保管する。

4. 病棟・各部門への医薬品の供給

- ・ 注射薬は原則、専用トレーに患者単位・1日単位の薬品を1手技ごとにセットし払い出す。
- ・ 配置品目・定数は、注射薬の使用量を基に年1回以上見直しを行う。
- ・ 特に安全管理が必要な医薬品（薬剤部ホームページ掲載：施錠管理の薬剤）のうち注射薬は、交付時に「所定の場所へ保管」と記載された専用の袋に入れて、直接手渡しあるいは施錠可能なカート又はカートに付属の施錠可能なボックスに入れて交付する。
- ・ カリウム製剤、抗がん薬及び筋弛緩薬は、一般病棟・外来診療科には原則として配置しない。

5. 外来患者への医薬品の使用

- ・ 要注意薬（ハイリスク薬等）は、薬歴、病名や臨床検査値などを確認する。
- ・ 処方内容に疑義がある場合は、医師へ問い合わせを行い、必ず疑義が解決してから調剤を行う。
- ・ 疑義照会の記録として、処方箋に照会内容を赤字で記入する。
- ・ 照会内容、変更内容、照会者を記載した疑義照会記録を保管する。
- ・ 疑義照会などで得られた調剤及び服薬指導に必要な患者情報を病院情報管理システムに登録する。
- ・ 処方内容に変更が生じる場合は、医師が処方を修正する。
- ・ 糖尿病用薬、自動車運転等の禁止等の記載がある医薬品等、薬学的指導が必要な薬剤を服用している患者には、用法・用量、副作用等に関して説明を行う。

6. 病棟における医薬品の管理

- ・ 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行う。
- ・ 規制医薬品及び特に安全管理が必要な医薬品については、必要最小限の数量を定数配置する。
- ・ 原則として年1回以上、病棟医長、病棟担当薬剤師、看護師長による配置薬品の見直しを行う。
- ・ 危険薬を新たに配置する場合は、病棟担当薬剤師が「医薬品名ラベル」とともに「危険薬シール」を配置箇所へ貼付し、識別性を高める。
- ・ 救急カートは医療安全の観点から、原則として一般病棟においては品目、数量及びカート内の配置を統一する。

7. 入院患者への医薬品の使用

- ・ 「持参薬確認業務マニュアル」に従い、薬剤師が原則すべての入院患者の持参薬について確認を行う。
- ・ 処方監査、調剤、患者説明等については「5. 外来患者への医薬品の使用」に準じる。
- ・ 払い出し済みの内服薬、外用薬等の用法・用量の変更及び中止の指示は、医師が指示をオーダー入力し、必要に応じて内容等を看護師に連絡する。
- ・ 払い出し済みの注射薬を変更又は中止する場合は、注射オーダーの変更又は中止の入力を行う。不要となった注射薬は返品伝票と共に薬剤部へ返納する。必要に応じて医師は指示オーダーを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- ・ 医師は、疑義照会により修正が必要となった場合は、病院情報管理システム上で処方修正を行う。必要に応じて医師は指示オーダーを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- ・ 使用する上で特に注意が必要な医薬品は、調製時の注意、希釈、安定性などの情報を出

力し、注射薬に添付して情報提供を行う。

8. 医薬品情報の収集・管理・提供

- ・ 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要、外観等の取り間違い防止に関する情報等を入手する。
- ・ 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。
- ・ 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。
- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。厚生労働省に送付した副作用情報は薬剤部で一括管理するとともに、薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報、DSU (Drug Safety Update : 医薬品安全対策情報)、緊急安全性情報、安全性速報、医薬品の新規採用等に関する情報、その他、厚生労働省からの通知等については、医療サービス課等より院内各部門へ配布する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ (薬剤部ホームページ) に掲載し、参照可能とする。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂など緊急性を有する安全性情報を入手した場合は、医薬品安全管理責任者 (薬剤部長) と対応を協議する。必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、処方医あるいは診療科ごとの患者リストを作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼する。入院中の患者については診療科担当薬剤師による副作用等の発現状況の確認も行う。確認終了後はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
- ・ 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。
- ・ DSU における「最重要」、「重要」に該当する薬剤等、使用状況の定期的な確認が必要な医薬品を医薬品安全管理責任者 (薬剤部長) と協議し決定する。
- ・ DSU における記載事項について遵守状況を確認し、必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、通知後の遵守状況を再度確認する。

9. 手術・麻酔部門

- ・ 手術部で使用する医薬品は、配置薬カート及び手術部医薬品庫に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
- ・ 向精神薬、筋弛緩薬等の配置場所への補充は、手術部担当薬剤師が行う。
- ・ 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、手術部担当薬剤師が行う。

- ・麻薬管理は、当日の麻酔科スーパーバイザーが行う。手術部担当薬剤師が麻薬の管理状況を平日業務日に点検し、使用数を補充する。休日が連続する場合は、休日後最初の平日に一括して行う。

10. 集中治療部門

- ・集中治療部で緊急時などに使用する医薬品は、配置薬カート等に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
- ・薬剤部からメッセンジャーにより搬送された医薬品の配置場所への補充は、平日は、常駐薬剤師が行う。休日及び常駐薬剤師が不在の場合は看護師が行う。
- ・向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、常駐薬剤師が行う。

11. 輸血・血液管理部門

12. 血液透析部門

13. 画像診断部門、臨床検査部門

14. 歯科領域

- ・11～14については「部署別安全管理マニュアル」部署別編ならびに各部門ホームページを参照する。

15. 他施設との連携

- ・必要に応じて他の医療機関へ、退院時処方（現に使用する医薬品の名称、剤形、規格、用法・用量）の内容、一包化等の調剤上の工夫、服薬期間の管理が必要な医薬品の投与開始日、アレルギー歴、副作用歴、禁忌医薬品等をお薬手帳や必要な情報が記載された簡潔な文書（シール等）に記載して提供する。
- ・院外処方箋に対する疑義照会及び回答は、薬剤部を介してファックスを用いて行う。

16. 事故発生時の対応

- ・緊急時には RRT またはドクターハリーコールにより対応する。
- ・事故発生を想定した対応手順の作成と定期的な見直しを行い職員へ周知する。
- ・「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」を職員に配布し、定期的に見直す。
- ・インシデント事例の収集・分析とそれに基づく事故防止対策の策定と実施を行う。
- ・事故発生時には、「医療事故防止対策マニュアル」、「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」に従って対応する。

17. 教育・研修

- ・医療安全、医薬品・医療機器に関する事故防止対策等の教育・研修を実施する。
- ・新任医師及び看護師に対する医薬品の安全使用に関する研修会を実施する。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 「補助循環（IABP, PCPS）」 2 「人工呼吸器の安全な維持管理 基礎編」 3 「血液浄化の安全な維持管理 基礎編」 4 「保育器の使用法」 「手入れ窓の付け方」 5 「除細動器の基礎」 6 「診療用放射線の安全利用について」 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 人工心肺装置 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンプ動作・センサー検知機等の動作確認 補助循環装置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観検査・内部検査・アラーム機能検査・表示機能検査・電源投入機能検査 ・ プライミング機能検査・モーター駆動検査・アラーム機能検査・タイマー機能検査 ・ 流量センサー検査・バッテリー充放電検査・電気的安全性検査 人工呼吸器 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観チェック・入力規格確認・電気的安全性・UVT・ソフトウェアバージョン ・ 酸素濃度・PEEP/CPAP・PS制度・アラーム機能・バッテリー動作確認 ・ フローセンサ・1回換気量測定・モニタ精度・タービンアワーメータ確認 ・ 本体アワーメータ確認・電源OFF時, アラーム確認・シールチェック ・ 交換パーツ及び数量の確認 血液浄化装置 <ul style="list-style-type: none"> ・ タッチパネル確認・透析液温度・自己配管診断・静脈圧0補整・目視点検 ・ バッテリー動作確認・CF時間確認・フィルター掃除・カプラー洗浄・バイパス消毒 ・ コンソール掃除・薬液ライン洗浄 除細動装置（AEDを除く） <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃状態確認, 清掃・外観チェック・ログの確認, 設定データのバックアップ ・ ECG機能・同期機能・SpO2機能・拡張セルフテスト 閉鎖式保育器 <ul style="list-style-type: none"> ・ 吸引ユニット・酸素・空気混合ガスユニット・警報機能・外観 診療用高エネルギー発生装置 ONCOR Impression Plus <ul style="list-style-type: none"> ・ ミラー調整・レティクル調整 ・ コリメータ回転角度調整 ・ 温湿度記録確認・温湿度測定器電池交換 ・ 除湿機のフィルター清掃 ・ ドレインの確認・水温, 水圧の確認 	

- ・ ケーブル接続確認・稼働記録確認
- ・ 電源分配パネル清掃

CLINAC-2100

- ・ ビーム調整・スタンドバッテリー確認
- ・ 冷却水フィルター交換
- ・ ガスケット交換
- ・ 照射野ランプ交換

マイクロセレクトロンHDR

- ・ 装置の分解, 清掃, 点検
- ・ 線源測定、交換・装置漏洩線量測定

Oncentra Brachy

- ・ ハードウェア及びソフトウェアの動作テスト
- ・ ハードウェアのクリーニング・システム設定確認

DIGITEX safire SP

- ・ 冷却用循環水補充・フィルター清掃・動作確認

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)
 - ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - 1 平成30年6月12日医政地発第0612第1号に基づき、製造販売業者等から不具合が生じた機器に関する情報を収集している。
 - 2 臨床工学技士の研修会及び講習会参加により種々情報を収集している。
 - 3 島根県出雲保健所から、人工呼吸器の医療安全対策に係る情報を収集している。
 - 4 インターネットによる医療事故情報にて情報を収集している。
- (情報の周知方法)
- 1 上記により収集した情報を医療機器安全管理責任者から病院長に報告をすると共に、該当設置部署、会計課及びMEセンターに文書及び口頭にて周知している。
 - 2 医療機器の安全使用のための研修会にて情報の周知を行っている。
 - 3 医療機器管理システムによる情報発信 (予定)
 - 4 放射線機器に関する情報は、部内メール、もしくは回覧にて周知している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・ 責任者の資格（ 医師 ）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>月1回開催される医療安全管理委員会において、医薬品の安全使用のための業務、規約等の整備、情報の収集、従事者への研修状況について、医薬品安全管理責任者より報告を受け、また、医療機器の安全使用のための業務、規約等の整備、情報の収集、従事者への研修状況について、医療機器安全責任者より報告を受け、適切な実施のための指示を行う。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 5 名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内の医薬品使用状況の把握 DSUに基づいた医薬品の使用状況の定期的な確認 令和4年度総件数 4 件、医薬品安全情報（院内）発出件数 3 件 2. 各種情報の整理 採用医薬品リストの改訂：令和4年度薬事専門部会 4 回 第1回 2022. 4. 27 第2回 2022. 8. 3 第3回 2022. 11. 1 第4回 2023. 2. 8 3. 医薬品安全管理責任者への報告 DSUに基づいた医薬品の使用状況の定期的な報告 令和4年度総件数 4 件、医薬品安全情報（院内）発出件数 3 件 院内副作用情報への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ランマーク皮下注」投与患者における顎骨壊死等の発現について、院内通知を発出 ・ 副作用報告が増加していたジョイクル投与症例の安全性調査を行い、適正に使用されていることを確認 <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握 使用が認められた未承認等の医薬品については、医療安全管理部と薬剤部のホームページに掲示し、院内および薬剤部内に周知を図った。 2. リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認 薬剤師による処方の妥当性等の確認を行った。 令和4年度実績： 0 件 3. 処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品管理責任者への報告 未承認等の医薬品使用状況の報告 令和4年度実績： 0 件 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無（ 有 ） ・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> （所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師・医薬品情報管理室担当 ） （所属：医療安全管理部 ， 職種：薬剤師・GRM ） 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（ 有 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：遵守状況を定期的に確認し、確認の結果、適切でない事例が認められる場合は、必要な指導を行うとともに、当該事例を各部署に通知し、又は研修で取り上げるなどして、適切に説明が行われるようにする。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. カンファレンスが適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容）、あるいは情報の共有が適切に行われているか 2. インフォームド・コンセントが適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容） 3. 他科の医師との連携は適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容、その他） 4. 主治医はその役割を適切に果たしているか 5. 診療、看護の方針は適切に立案、実行されているか（医師は診断経過から治療方針が導き出されているか、看護師は看護診断が適切に行われ、看護計画の立案とそれに基づいた看護介入が行われているか） 6. その他問題と考えられる事項（改善すべき事項）はあるか 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 9 ）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 2 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： 	

1. 医療安全対策の推進のための指導及び管理。
2. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
3. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
4. インフォームド・コンセントに関する確認及び指導など。
5. 事故等の原因究明が適切に実施されていること、その他の対応状況の確認及びその確認結果に基づく必要な指導を行うこと。
6. 医療安全に係る連絡調整に関すること。
7. 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。
8. 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。
9. 診療用放射線の安全管理に係る連絡調整に関すること。
10. 安全管理に関する教育・研修及び安全管理に関する意識の向上の状況確認に関すること。
11. 医療事故調査制度に係る連絡調整に関すること。
12. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の事務に関すること。

モニタリングの具体例

- (ア) 放射線・病理レポート未読率
- (イ) 転倒転落発生率
- (ウ) 患者確認手順遵守率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 5 件）、及び許可件数（ 5 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等の決定等に関する業務を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 8 件）、及び許可件数（ 8 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・活動の主な内容：
未承認新規医薬品等担当部門は、未承認新規医薬品等・適応外使用による医療の提供の適否等の決定に関する業務を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 442 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 2,770 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全管理部がカルテ記載や部署のリスクマネージャーからの聞き取りで状況確認し検証の上、医療安全管理委員会へ報告し審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名： 金沢大学附属病院 ））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名： 名古屋市立大学病院 ））
- ・技術的助言の実施状況
 1. 禁忌薬剤（アレルギー薬剤を含め）の処方を防ぐためのシステム等の構築として、食事・造影剤への対策を含めたアレルギー対策 WG を設置し、システム構築や運用を検討している。
 2. 未承認新規医薬品使用後のフォローアップを薬剤（または医療機器）や患者の特性に合わせていつまで行うかの検討や、使用した患者の把握（拾い上げ）に工夫が必要との助言を受け、把握できる仕組みの検討を行っている。
 3. 高難度新規医療技術導入後の報告について、症例ごとの実施報告件数を定め、把握できる

仕組みを検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院内の医療相談室内に患者相談部門を設置し、活動の趣旨、設置場所、責任者、対応時間について病院受付に明示している。主に患者相談部門担当者がその対応にあたっている。医療安全管理者は患者相談部門の担当者と連携を密にして情報を共有し、患者・家族の相談に応じる体制を整備している。患者の意向を尊重し、相談による不利益を与えることなく、プライバシー保護にも配慮している。相談内容が重要と判断した場合は、その部署責任者にインシデント報告を依頼し、医療安全管理委員会等で検討後、対応を関連部署や病院全体に周知して業務の改善をはかる体制としている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全「第1回医療安全のための研修会」
2. 医療安全「第2回医療安全のための研修会」
3. 新規採用者「医療安全・感染対策研修会」
4. 中途採用者「医療安全・感染対策研修会」
5. 医薬品「医薬品安全使用のための研修会」
6. 医療機器：補助循環「補助循環（IABP、PCPS）」
7. 医療機器：人工呼吸器「人工呼吸器の安全な維持管理 基礎編」
8. 医療機器：血液浄化装置「血液浄化の安全な維持管理 基礎編」
9. 医療機器：保育器「保育器の使用法」「手入れ窓の付け方」
10. 医療機器：除細動器「除細動器の基礎」
11. 診療用放射線「診療用放射線の安全利用について」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修」に、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者が参加し、医療に係る安全管理のための研修を受講した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

主たる機能種別 一般病院3（機能種別版評価項目 3rdG : V. 2. 0

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・ 評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 島根大学医学部附属病院長選考基準 https://www.shimane-u.ac.jp/_files/00316484/senkouki_jun2023.pdf ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載 ◇部局長選考規程 https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=6 ◇医学部附属病院長候補者選考会議規程 https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=7 ◇医学部附属病院長候補者選考会議の運営に関する細則 https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=8

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算 ・審議の概要の従業者への周知状況 ホームページに会議資料及び議事要旨を掲載している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・公表の方法 ホームページに掲載している。 ◇医学部附属病院運営委員会規程 https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=355 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
椎 名 浩 昭	○	医師	病院長
田 邊 一 明		医師	副病院長（教授）
大 野 智		医師	副病院長（教授）
金 崎 啓 造		医師	副病院長（教授）
鬼 形 和 道		医師	副病院長（教授）
川 上 利 枝		看護師	副病院長（看護部長）
和 田 孝一郎		教員	教授
名 越 究		教員	教授
石 村 典 久		医師	准教授
鈴 木 律 朗		医師	教授
田 村 研 治		医師	教授
石 原 俊 治		医師	教授

飛田博史		医師	講師
長井篤		医師	教授
一瀬邦弘		医師	教授
近藤正宏		医師	講師
磯部威		医師	教授
神田武志		医師	教授
山崎修		医師	教授
林田健志		医師	准教授
竹谷健		医師	教授
日高匡章		医師	教授
平原典幸		医師	准教授
久守孝司		医師	講師
板倉正幸		医師	准教授
山崎和裕		医師	教授
山根正修		医師	教授
内尾祐司		医師	教授
林健太郎		医師	教授
和田耕一郎		医師	教授
稲垣正俊		医師	教授
京哲		医師	教授
坂本達則		医師	教授
谷戸正樹		医師	教授
楫靖		医師	教授
玉置幸久		医師	准教授
二階哲朗		医師	教授
岩下義明		医師	教授
管野貴浩		歯科医師	教授
矢野彰三		医師	准教授
新野大介		医師	教授
馬庭壮吉		医師	教授
牧石徹也		医師	教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
ホームページに掲載している。
◇医学部附属病院規則
https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=353
◇医学部附属病院中央診療施設等及び薬剤部の部長，センター長及び室長並びに副部長，副センター長及び副室長選考規程
https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=390
◇会計規則
https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=197
- ・ 規程の主な内容
病院の管理運営を統括し、所属職員を監督する。
部長等の選考を行い、任命する。
所掌する予算単位における予算案の作成及び予算の適正な執行について、権限と責任を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長を5人置き、それぞれ「病院の改革に関する業務」「医療の安全管理に関する業務」「病院の経営に関する業務」「研究・教育に関する業務」「職場環境改善・看護の質管理に関する業務」を担っている。
特別副病院長を置き、「病院長が指定する業務」を担っている。
また、病院長補佐を置き、それぞれ「改革」「安全管理」「経営」「研究・教育」を担っている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院長・副病院長が病院管理研修、病院マネジメントセミナー等を受講している。
また、事務部門においても、病院経営に係る企画・立案、専門的な経営分析ができるよう各種研修会に参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容：島根大学医学部附属病院の医療安全の取組状況について監査し、必要に応じて是正措置等を講ずるよう指導・助言を行う。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法：島根大学医学部附属病院のホームページに公表している。 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大居 慎治	松江赤十字病院		医療安全管理に関する識見を有する	無	1
北條 宣政	浜田医療センター		医療安全管理に関する識見を有する	無	1
二國 則昭	弁護士法人広島 みらい法律事務所	○	医療安全管理に関する識見を有する	無	1
高瀬 政夫	出雲市今市地区 社会福祉協議会		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - 専門部署はないが、学長をコンプライアンス最高責任者とし、コンプライアンス統括責任者（総務・労務、情報セキュリティ担当理事）、コンプライアンス責任者（常勤理事）を置いている。
 - コンプライアンスに係る規則等の整備及び講習を実施するための全学的な年度計画（コンプライアンス・プログラム）を策定・実施している。
 - コンプライアンス違反の報告又は通報があった場合は、速やかな調査と必要に応じた是正措置を行う。
- ・ 専門部署の設置の有無（ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）
- ・ 公表の方法
ホームページに掲載している。
<https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/compliance/index1.html>

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 大学の理事会等とは別に設置しておらず、管理者が理事を兼務し、会議体に参画している。
 管理者が会議体において病院の管理運営状況を定期的に報告している。
- ・ 会議体の実施状況（ 経営協議会 年9回，役員会 年15回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）
 （参画実績：経営協議会 年8回，役員会 年15回）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）
- ・ 公表の方法
 ホームページに掲載している。

◇経営協議会規則
https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=21

◇役員会規則
https://www.kitei.jn.shimane-u.ac.jp/browse.php?action_treeList&rule=20

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年 0 件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法 医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアルに掲載 島根大学ホームページに掲示